

みなぎの 1

—平成 28・29 年度 三木市立みき歴史資料館年報・紀要—



三木市立みき歴史資料館

目 次

年 報

I	はじめに	1
1	整備の背景と経緯	1
2	コンセプト	1
3	基本方針	2
II	沿革等	2
1	沿革	2
2	施設の概要	3
III	資料館事業活動	4
1	開館準備	4
2	展示事業及び関連事業	4
3	ボランティア	19
4	年間イベント（歴史講座、歴史ウォーク、体験教室等）	19
5	施設管理	24
6	収集事業	24
7	入館者状況	24
IV	管理運営	25
1	管理運営方式と体制	25
2	組織図	25
3	職員構成	26
4	資料館協議会	26
V	刊行物等	27
1	刊行物	27
2	館内放映動画作成	28

紀 要

法界寺「東播八郡総兵別所府君墓表」について	—
— 釈文・読み下し・解説と墓碑建立の背景 —	依藤 保

例 言

- 1 本書は、三木市立みき歴史資料館が平成 28 年度・平成 29 年度に実施した事業等を記録した年報・紀要の第 1 号です。
- 2 紀要には、依藤保氏（三木市文化財保護審議会委員）に玉稿を賜りました。
- 3 本書の執筆・編集は、藤原由佳（三木市立みき歴史資料館学芸員）が行いました。

年 報

I はじめに

1 整備の背景と経緯

三木市は、天正6年（1578）から天正8年、織田信長の命を受けた羽柴秀吉と戦国大名毛利輝元に与した三木城主別所長治との間で起こった「三木合戦」の舞台となりました。

市内には、三木城跡のほか、織田方が三木城を攻めるために築いた付城跡群が数多く残っています。これら遺跡群は平成25年（2013）3月、「三木城跡及び付城跡・土塁」として国史跡に指定されました。

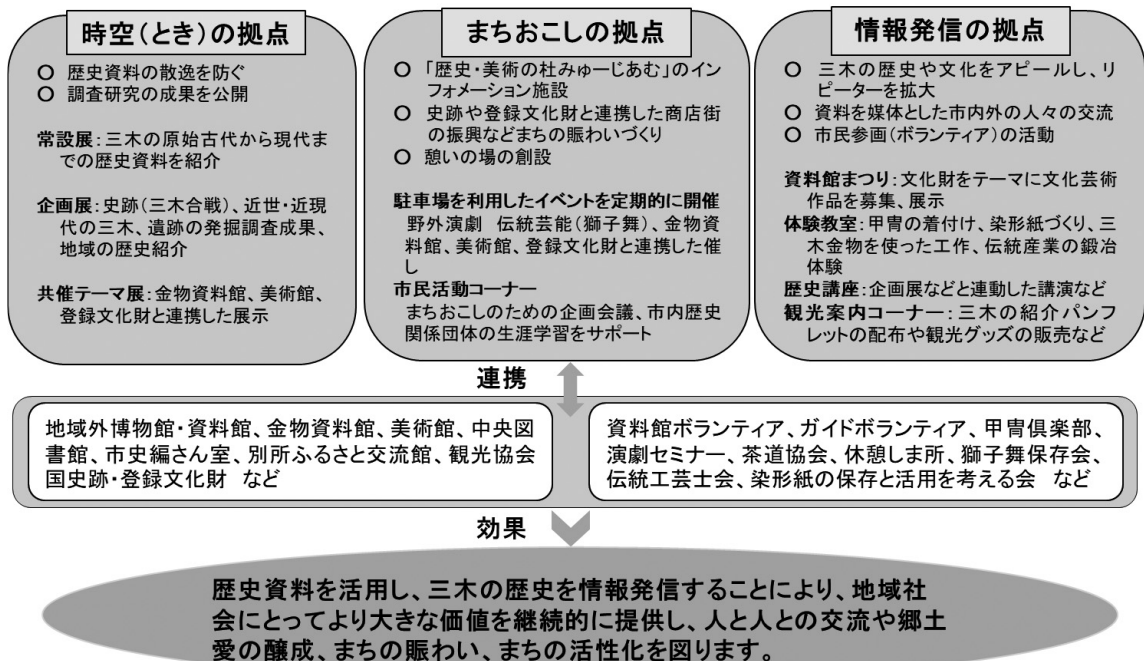
そして、史跡指定と前後するかたちで、これらの遺跡群を活かしたまちづくりを推進するため、平成24年6月、「三木歴史・美術の杜構想」を策定しました。

また、三木歴史・美術の杜構想に基づいて、三木城跡や城下町を含む付城跡群で囲まれた区域全体をフィールドミュージアムに見立てる「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として整備する「みき歴史資料館」のコンセプト、基本方針、事業活動計画、施設計画、管理運営計画を定めた「みき歴史資料館基本計画」を平成28年3月に策定しました。

これを受けて、平成28年5月5日、「みき歴史資料館」が開館しました。

2 コンセプト

コンセプトを「時空（とき）の拠点」「まちおこしの拠点」「情報発信の拠点」として整備しています。



3 基本方針

三木城二の丸跡に位置する三木市立図書館が、平成 27 年 7 月に移転したことに伴い、その施設を「みき歴史資料館」として活用し、美術館や金物資料館と一体的な利用をすることにより、三木市の歴史や文化を発信します。

「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」のインフォメーション施設としての機能を果たし、史跡や登録文化財（旧玉置家・旧小河家別邸）、観光協会や道の駅等と連携したまちの賑わいづくりを担います。

年間入館者数 2 万人を目指します。

II 沿革等

1 沿革

平成 24 年 6 月	三木歴史・美術の杜構想 策定
平成 25 年 7 月 27 日	三木城跡及び付城跡・土塁が国指定史跡に指定
平成 27 年 3 月	史跡三木城跡及び付城跡・土塁保存管理計画書 策定
7 月	三木市立図書館が移転
12 月 26 日	展示工事着手
平成 28 年 3 月	みき歴史資料館整備基本計画 策定
3 月 26 日	三木市立歴史資料館条例 策定
4 月 22 日	三木市立歴史資料館規則 策定
4 月 28 日	展示工事完了
5 月 5 日	開館 オープニングイベントを開催
9 月 26 日～28 日	3 階収蔵庫の既存書架撤去作業
11 月 4 日	1 階、2 階防犯カメラ移設工事
平成 29 年 2 月 1 日～6 日	2 階企画展示室及び 1 階～3 階階段壁面クロス 張替工事
3 月 27 日、28 日	1 階常設展示室、2 階企画展示室、新規展示ケース 設置
8 月 7 日～10 日	1 階トイレ和式便器 3 基を洋式便器に交換し、 L 字手摺を増設、多目的トイレに暖房便座設置

11月30日 空調機空冷チラー設備修理

平成30年3月22日 旧上の丸庁舎の収蔵コンテナを歴史資料館へ移動

2 施設の概要

着手 平成27年12月26日

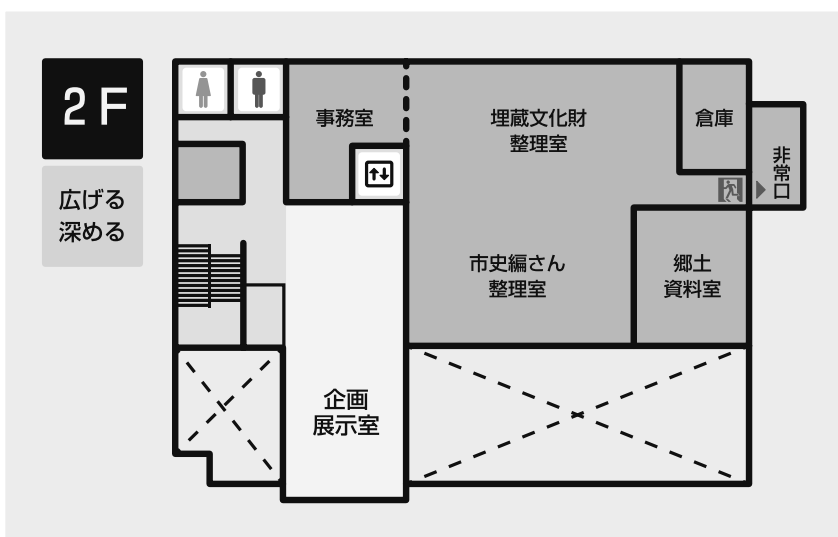
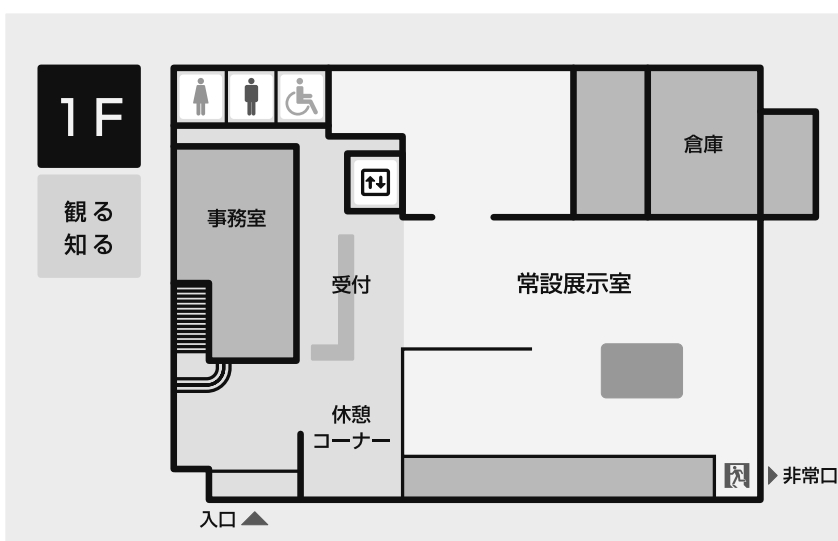
完成 平成28年4月28日

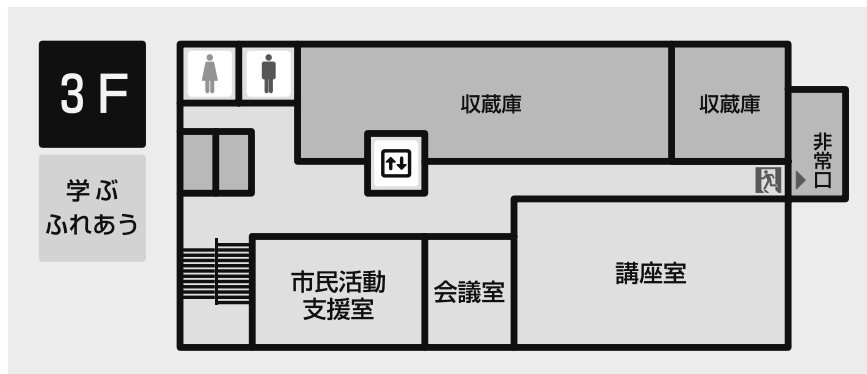
開館 平成28年5月5日

構造 鉄筋コンクリート造り 地上3階

延べ床面積 1,903平方メートル

総事業費 14,893,200円





Ⅲ 資料館事業活動

1 開館準備

「みき歴史資料館」として開館するため、旧図書館建物を改装しました。

改装内容は、展示ケース及び壁面パネルの製作・設置やグラフィックパネルの製作、1階常設展示室の展示用照明機器設置、1階常設展示室遮光カーテン設置、3階ホール間仕切り設置、正面玄関前石碑表示変更です。

2 展示事業及び関連事業

(1) 常設展示

常設展示は、三木の原始古代から現代までの6つの時代に分けて、発掘調査によって出土した遺物、古文書等の歴史資料を約300点展示しています。

① 三木のあけぼの

三木市は、加古川とその支流美囊川との合流点の周辺から人々の営みの痕跡を伝える遺跡が数多く見られ、時代が下るにつれて、上流へと広がりを見せるようになります。

三木市において遺跡の存在が顕著になるのは、弥生時代の中期からです。

② 古墳時代の三木

古墳時代になると、美囊川に沿ってさらに上流へと遺跡の分布が見られるようになります。

中期から後期に入ると、台地や斜面地、段丘の至るところに数多くの古墳が築かれるようになります。美囊川と加古川の合流地点、市西部の美囊川に臨む南側及び北側丘陵、志染川の南側丘陵に集中しています。

③ 古代・中世の三木

奈良時代に編さんされた『播磨国風土記』によると、美囊郡には、高野里・枚野里・志染里・吉川里の四里があったことが記されています。

平安末期から鎌倉初期にかけての荘園制の成立に伴い、市内においても久留美荘など数箇所の荘園が確認できます。

中世に入ると、市内各地において寺院の活動が活発化していきます。

④ 三木城の時代

三木（美囊）郡三木城を拠点とした三木別所氏は、赤松庶流家に出自をもち、東播磨8郡（三木・明石・印南・加古・多可・神東・加西・加東）の守護代に任じられるなど、戦国期東播磨最大の勢力として、その広い範囲に影響力を及ぼしました。

三木合戦後は、織田・豊臣・徳川の家臣が入城し、元和元年（1615）の一国一城令により、廃城となりました。

⑤ 近世の三木

江戸時代、三木町は美囊川沿いの交通の要地に位置し、18世紀中頃から19世紀前半にかけては金物の町として発展します。一方、領主支配が複雑に入り組んだ農村部は、耕地の拡大によって農業生産が増加するとともに、大庄屋組などの地域運営のシステムがしだいに整備されていきました。

⑥ 近現代の三木

明治時代に入ると、三木も近代化が進んでいきます。とくに、山田錦の開発に象徴される農業の発展、三木金物業の地場産業としての定着と戦後における輸出産業化は、現在の三木の地域イメージとも直結する重要な事項です。

戦後は、町村合併・市制施行やニュータウンの造成が進められ、現在の三木にいたりました。



常設展示 展示風景



常設展示 展示風景

(2) 企画展示

【平成28年度企画展(年6回)】

① 開館記念企画展「三木合戦を知る」

会期	内容	来館者数
平成28年5月5日(木・祝)～ 6月26日(日)	三木城跡・付城跡の出土遺物及び三木市内の寺院所蔵資料等を通じて、三木合戦の歴史を紹介しました。	3,945人

【関連事業】

日時	内容	参加者数
平成28年5月5日(木・祝) 午前11時～午後3時	オープニングイベント 【ステージイベント】 ・開館記念式典 ・太鼓演奏 三木太鼓 ・太神楽 豊来家玉之助 ・民謡踊り 高齢者大学民謡踊りクラブ ・寸劇 三木甲冑倶楽部 ・大道芸 高齢者大学大道芸クラブ ・のこぎり演奏 三木ノコギリス 【おもてなしコーナー】 ・パスタ、巻すし、うどん ・観光協会グッズ販売	1,400人
平成28年5月8日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会「三木合戦を知る」 講師: 渡邊大門 氏(株歴史と文化の研究所代表取締役)	80人

みき歴史資料館
時空(とき)、まちおこし、情報発信の拠点
2016.5.5 OPEN
古代から現代までの歴史資料
約300点を常設展示

開館(祝日)

オープニングイベント開催
■日時: 5月5日(祝) 11:00～15:00
■会場: 三木市上丸町4-5(旧図書館跡) TEL.0794-82-5060

※雨天の場合は、みき歴史資料館(3階)で行います。
※展示資料の搬入搬出は、イベント会場に異なりますので、三木市役所、文化会館駐車場など、周辺駐車場をご利用ください。

【ステージイベント】
・太鼓演奏(三木太鼓)
・太神楽(豊来家玉之助)
・民謡踊り(高齢者大学 民謡踊りクラブ)
・寸劇(甲冑倶楽部)
・大道芸(高齢者大学 大道芸クラブ)
・のこぎり演奏など(三木ノコギリス)

【おもてなしコーナー】
・パスタ、巻すし、うどん
・観光協会グッズ販売
【観光美術館】
・炬はがきの無料頒布

三木市立 みき歴史資料館
三木市上の丸町4-5(旧図書館跡) TEL.0794-82-5060
■開館時間: 午前9時～午後5時 ■休館日: 月曜休館 ■入場無料(常設展示)

お問い合わせ先
三木市教育委員会 教育企画部文化スポーツ振興課 歴史・美術の杜グループ
電話 0794-82-2000(内線 3557) FAX 0794-83-3699

5月オープン記念月刊イベント

【企画展】会場/みき歴史資料館
三木合戦を知る 期間/5月5日(木)～6月26日(日)

【月刊イベント】
※事業予定は変更になる場合があります。

開催日	内容	詳細	時間
5月7日(土)	バスで巡る現地見学会(史跡巡り) (体験教室)親子で甲冑着付け体験	集合:市役所みつきい広場(9:00) 先着:20名 会場:みき歴史資料館 先着:20名(写真撮影有)	9:00～11:30 13:30～15:00
5月8日(日)	企画展特別講演会「三木合戦を知る」	会場:みき歴史資料館 講師:渡邊大門 氏 定員:80名	13:30～15:00
5月14日(土)	バスで巡る現地見学会(古墳巡り) (体験教室)陶芸体験 ※対象:子ども	集合:市役所みつきい広場(9:00) 先着:20名 会場:みき歴史資料館 先着:20名(材料費500円程度)	9:00～11:30 13:30～15:00
5月15日(日)	歴史講座①(三木城について) 「三木合戦軍図解き」実演	会場:みき歴史資料館 定員:80名 会場:みき歴史資料館 定員:80名	10:00～11:00 13:30～14:30
5月21日(土)	城下町ウォーキング(東コース) (体験教室)勾玉づくり ※対象:子ども	集合:みき歴史資料館(9:00) 会場:みき歴史資料館 先着:20名(材料費400円程度)	9:00～11:30 13:30～14:30
5月22日(日)	歴史講座②(市史編さんとまちづくり) (ワークショップ)錫のアクセサリ	会場:みき歴史資料館 定員:80名 会場:みき歴史資料館 先着:10名(材料費1500円程度)	10:00～11:00 13:30～15:30
5月28日(土)	城下町ウォーキング(西コース) (ワークショップ)自分の印を作ろう	集合:みき歴史資料館(9:00) 会場:みき歴史資料館 先着:10名(材料費700円程度)	9:00～11:30 13:30～15:30
5月29日(日)	歴史講座③(播磨風土記)	会場:みき歴史資料館 定員:80名	10:00～11:00

※バスで巡る現地見学会、体験教室(対象:子ども)、ワークショップ(対象:大人)は、定員があります。申し込み先 TEL.0794-82-5060
事前に、みき歴史資料館に申し込んでください。 TEL.0794-82-2000
内線 3557

【金物資料館】
播州三木打刃物伝統工芸士展 期間/4月29日(金・祝)～5月29日(日)

【三木金物古式鍛錬技術保存会】 場所/古式鍛錬場(金物資料館横)
金物古式鍛錬 日時/5月8日(日) 10:00～13:00

企画展 ちらし(表・裏)



企画展示室



展示風景



展示風景



展示風景



おもてなしコーナー



ステージイベントの様子



ステージイベントの様子



ステージイベントの様子

② 「三木飛行場展」

会期	内容	来館者数
平成28年7月9日(土)～7月31日(日)	三木飛行場を記憶する会の協力を得て、古写真などの資料を通じ、太平洋戦争末期に建設された三木飛行場や駐屯した兵隊の姿、近隣住民との交流といった、在りし日の飛行場の記憶を紹介しました。	1,541人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成28年7月16日(土) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会「三木飛行場をさぐる」 講師：宮田逸民 氏(三木飛行場を記憶する会)	90人

企画展

三木飛行場展

会期：平成28年7月9日(土)～7月31日(日)

約70年前、三木にも飛行場があった
近隣住民や学生たちがつくり、若者が訓練した場所

7月16日(土)
企画展特別講演会「三木飛行場をさぐる」
講師：三木飛行場を記憶する会 宮田逸民氏
日時：平成28年7月16日(土)13:30～15:00

三木市立 みき歴史資料館
三木市上の丸町 4-5 TEL.0794-82-5060

■開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日/7月11日(月)・19日(火)・25日(日) **入館無料**

企画展

三木飛行場展

会期：平成28年7月9日(土)～7月31日(日)

■三木飛行場の開催にあたって
太平洋戦争末期、三木飛行場とよばれる飛行場がありました。運用からまもなく終戦、跡地は農地化されたため、現在その面影をみることはできません。本展では、三木飛行場を記憶する会のご協力を得て、古写真やゆかりの資料を通じて、三木飛行場や駐屯した兵隊さんの姿、近隣住民との交流といった、在りし日の飛行場の記憶を紹介いたします。

7月16日(土) 無料 申し込み不要
企画展特別講演会「三木飛行場をさぐる」
講師：三木飛行場を記憶する会 宮田逸民氏
日時：平成28年7月16日(土)13:30～15:00
会場：みき歴史資料館3階 講座室
定員：先着80名

■7月の主な月間イベント

3 歴史講座④「高木古墳群の発掘調査成果」 (日) 講師：三木市教育委員会文化スポーツ振興課 金松 誠	日時：平成28年7月3日(日)13:30～14:30 会場：みき歴史資料館3階 講座室 定員：80名(申し込み不要、無料)
24 ワークショップ「開張りのうづわを作りましょう」 (日) 講師：三木市文化財保護審議会 尾立 和則氏	日時：平成28年7月24日(日)13:30～15:30 会場：みき歴史資料館3階 市民活動支援室 定員：中学生以上、先着10名(要申し込み、材料費500円)
31 体験教室「親子で勾玉づくり体験」 (日) 講師：当館職員	日時：平成28年7月31日(日)13:30～15:30 会場：みき歴史資料館3階 市民活動支援室 定員：先着10名(要申し込み、材料費400円程度)

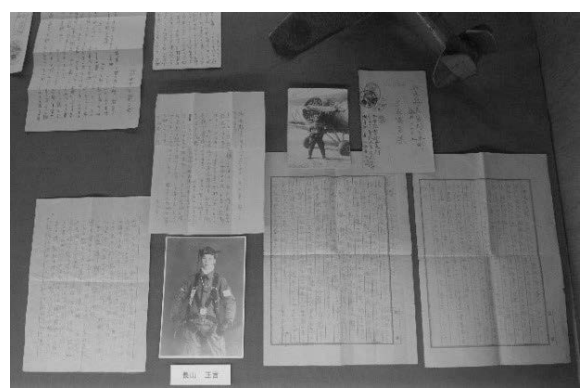
申し込み先 **三木市立 みき歴史資料館** TEL:0794-82-5060
〒673-0432 三木市上の丸町4-5

7月休館日 **4日(月)・11日(火)・19日(水)・25日(日)**

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

③ 「吉川の遺跡」

会期	内容	来館者数
平成28年8月13日(土) ～9月22日(木・祝)	昭和45年から平成19年に吉川町で実施された遺跡の発掘調査の成果について、出土遺物や写真パネルを通じて、吉川町の歴史を紹介しました。	1,459人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成28年8月21日(日) 午後1時30分～午後2時30分	企画展特別講演会「吉川の遺跡を語る」 講師：畠中 剛(三木市職員)	37人

企画展

よかわ 吉川の遺跡

会期：平成28年8月13日(土)～9月22日(木・祝)

耳環(上松5号墳)
須恵器(実案1号墳)
須恵器(古市1号墳)

8月21日(日)
企画展特別講演会「吉川の遺跡を語る」
講師：畠中 剛氏
日時：平成28年8月21日(日)13:30～14:30

三木市立 みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町 4-5 TEL.0794-82-5060

■開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日：8月15日(月)、22日(月)、29日(月)
9月 5日(月)、12日(月)、20日(火)

入館無料

企画展

吉川の遺跡

会期：平成28年8月13日(土)～9月22日(木・祝)

■企画展の開催に当たって
三木市吉川町には58か所の遺跡が確認されています。これまでに多くの遺跡が発掘調査が実施されてきましたが、発掘調査成果を公開する機会が限られていたため、その内容についてはほとんど知られていません。そこで、このたび、みき歴史資料館の開館を機に、吉川町の遺跡を広く知っていただくため、本展を企画しました。
本展では、昭和45年(1970)～平成19年(2007)に吉川町で実施された遺跡の発掘調査成果について、出土遺物や写真パネルを通じて、吉川町の歴史を紹介します。

※展示で紹介する主な遺跡 長谷遺跡、東家1・2号墳、有安2号墳、上松5号墳、古川城跡

整穴住居跡(長谷遺跡) 古川城跡空中写真

8月21日(日) 無料 申し込み不要
企画展特別講演会「吉川の遺跡を語る」
講師：畠中 剛氏
日時：平成28年8月21日(日)13:30～14:30
会場：みき歴史資料館3階 講座室
定員：先着80名

横穴式石室(上松5号墳)

■8月の主な月間イベント

6(土)	歴史講座⑤「絵図の世界」 講師：みき歴史資料館 長谷川 英樹	日 時：平成28年8月6日(土)13:30～14:30 会 場：みき歴史資料館3階 講座室 定 員：80名(申し込み不要、無料)
28(日)	第5回 歴史ウォーク(国史跡) 「ホーランドパーク周辺付城跡コース」	日 時：平成28年8月28日(日)(小雨決行) 9:00～12:00 コ ー ス：道の駅みき 出発⇒昭石遺峯付城跡⇒シクノ谷峯付城跡⇒高木大山付城跡⇒高木大塚城跡⇒道の駅みき 解散 (約4km) 集合場所：道の駅みき 参加費：無料(申し込み不要)

企画展 ちらし(表・裏)



展示風景



企画展特別講演会(畠中 剛)

④ 「三木の屋台資料展～大宮八幡宮と例大祭～」

会期	内容	来館者数
平成28年10月1日(土)～11月20日(日)	大宮八幡宮と例大祭に奉納される屋台について、水引幕や高欄掛といった屋台衣裳とともに、市有宝蔵文書や古写真などの歴史資料を通じて、秋祭りをめぐる地域誌を紹介しました。	2,803人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成28年10月30日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 「他地域との比較から見た三木のタイコと祭」 講師:山田貴生 氏(小学校教員・民俗学)	81人

企画展 三木の屋台資料展
～大宮八幡宮と例大祭～

会期 平成二十八年十月一日(土)～十一月二十日(日)

企画展特別講演会
10月30日(日)13時30分～15時
「他地域との比較から見た三木のタイコと祭」
講師 山田 貴生氏(小学校教員・民俗学)

三木市立 みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 TEL.0794-82-5060

■開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日/10月3日(月)、11日(火)、17日(月)、24日(日)、31日(日)、11月4日(金)、7日(月)、14日(日)

入館無料

企画展 三木の屋台資料展
～大宮八幡宮と例大祭～

会期：平成28年10月1日(土)～11月20日(日)

ご案内
10月秋祭りの季節、徳洲三木の秋祭りが近づきます。三木の祭りを彩る屋台は、人下、高欄、本彫り、落傘具といった職人の技がみえる職やみのりばかりです。本展では、大宮八幡宮と例大祭に奉納される屋台について、水引幕や高欄掛といった屋台衣裳とともに、市有宝蔵文書や古写真などの歴史資料を通じて、三木の秋祭りをご紹介いたします。

企画展特別講演会
10月30日(日) 無料 (申し込み不要)
「他地域との比較から見た三木のタイコと祭」
～大宮八幡宮祭礼を中心に～
講師 山田貴生氏(小学校教員・民俗学)
日時 平成28年10月30日(日)13:30～15:00
会場 みき歴史資料館 3階 講座室
定員 80名

10月の主なイベント

歴史講座 古文書入門講座「はじめてのくずし字」(全3回)
開催日時 第1回 平成28年10月14日(金)、21日(金)、28日(金) 13:30～14:30
会場 みき歴史資料館 3階 講座室 定員 各20名(申込不要・参加費無料)

体験教室 和太鼓に挑戦
開催日時 平成28年10月29日(土) 13:30～14:30 会場 みき歴史資料館駐車場(雨天時:歴史資料館3階)
対象 小学生以上(保護者1回陪同) 定員 先着10名(要申込・参加費無料)

歴史ウォーク 「東古川の歴史を訪ねて」
開催日時 平成28年10月23日(土)9:00～12:00(雨天中止)
集合場所 東古川小学校校庭前駐車場 コース 市野瀬城跡・永天寺・樋谷城跡・薬師宮
参加費 無料 高学年以上は必要ありませんので、当日、集合場所へお越しください。

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

⑤ 「三木の染形紙展」

会期	内容	来館者数
平成28年12月3日(土)～平成29年1月29日(日)	ギャラリー湯の山みちと三木の染形紙の保存と活用を考える会の協力を得て、様々な染形紙やその製品の展示を通じて、かつて三木を代表する産業だった染形紙の魅力を紹介しました。	1,876人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成28年12月18日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会「型紙からみえてくること 歴史・風土・生活」 講師:生田ゆき 氏(三重県立美術館学芸員)	59人

企画展
三木の染形紙展
会期:平成28年12月3日(土)～平成29年1月29日(日)

かつて三木には染形紙を中心とした産業がありました。
染形紙とは、色を染めずとも型紙を用いて染め上げる道具の一つで、特徴が際立つた伝統技術を誇り、かつての職人をしのぶものでもあります。

企画展特別講演会
「型紙からみえてくること 歴史・風土・生活」
講師:生田ゆき 氏(三重県立美術館 学芸員)
日時:平成28年12月18日(日) 13:30～15:00

入館無料

三木市立みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上丸町 4-5
TEL.0794-82-5060

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 12月5日(月)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、
28日(水)～1月4日(水)、10日(火)、16日(月)、23日(月)

企画展
三木の染形紙展
会期:平成28年12月3日(土)～平成29年1月29日(日)

■ ご案内
三木の染形紙は、江戸時代の史料をみると、全国規模で流通した地域を代表する産業であり、三木の歴史や地域文化を考える上で欠くことのできないものでした。
そこで本展では、「ギャラリー湯の山みち」と「三木の染形紙の保存と活用を考える会」の協力を得て、様々な染形紙やその製品の展示を通じて、かつて三木を代表する産業だった染形紙の魅力を紹介します。

12月18日(日) 無料
企画展特別講演会
「型紙からみえてくること 歴史・風土・生活」
講師:生田ゆき 氏(三重県立美術館 学芸員)
日時:平成28年12月18日(日)13:30～15:00
会場:三木市立みき歴史資料館3階講座室
定員:先着80名(申し込み不要)

ギャラリートーク
平成28年12月18日(日)15:30～16:00
平成29年1月15日(日)13:30～14:30
講師:筒井俊雄 氏
(ギャラリー湯の山みち館長)

写真提供:ギャラリー湯の山みち

■ 会期中の主なイベント

12/10(土)	ワークショップ「染形紙を彫る」	日時:平成28年12月10日(土)13:30～15:00 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会 会場:三木市立みき歴史資料館3階市民活動支援室 定員:中学生以上 先着15名(要申し込み 参加費:500円程度)
12/11(日)	第8回 歴史ウォーク「秀吉本陣跡(国史跡 平井山ノ上付城跡)コース」	日時:平成28年12月11日(日)9:15～12:00(小雨決行) 集合場所:神戸電鉄 恵比寿駅 コース:恵比寿駅→今宮本音頭→竹中平兵衛の墓→秀吉本陣跡→(石)竹中平兵衛陣所跡→恵比寿駅 参加費:無料 ※参加申し込みは必要ありませんので、当日、集合場所へお越しください
12/11(日)	ワークショップ「お正月準備! しめ縄を作る」	日時:平成28年12月11日(日)13:30～16:00 講師:中西重直 氏 会場:三木市立みき歴史資料館3階 市民活動支援室 定員:中学生以上 先着15名(要申し込み 参加費:500円程度)
1/22(日)	ワークショップ「染形紙で染める」	日時:平成29年1月22日(日)13:30～15:00 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会 会場:三木市立みき歴史資料館3階市民活動支援室 定員:中学生以上 先着15名(要申し込み 参加費:1000円程度)

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



企画展特別講演会 (生田ゆき 氏)

⑥ 「地域の史料たち～みんなが主役の市史編さん～」

会期	内容	来館者数
平成29年2月11(土)～ 3月26日(日)	市史編さん活動の様子や、これまで調査した歴史資料の展示を通じて、三木の地域歴史遺産の魅力を紹介しました。	2,130人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成29年2月26日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 「市民が主役の自治体史」 講師:大槻 守 氏(香寺歴史研究室)	35人

企画展
地域の史料たち
みんなが主役の市史編さん
会期：平成29年2月11日(土)～3月26日(日)

企画展特別講演会
大槻 守 氏(香寺歴史研究室)
市民が主役の自治体史
平成29年2月26日(日) 13:30～15:00

三木市立 みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 TEL.0794-82-5060
開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：1/2月13日(土)、20日(月)、27日(日)、3月8日(土)、13日(月)、21日(水)
入館無料

企画展
地域の史料たち
みんなが主役の市史編さん
会期：平成29年2月11日(土)～3月26日(日)

現在、三木市では、神戸大学大学院人文研究科地域連携センターと連携して市史編さん事業を行っています。昭和45年に刊行された「三木市史」、『吉川町誌』以来、およそ45年ぶりに地域の歴史を全体としてまとめることとなります。

三木市は市制60周年を迎え、歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組んでおり、新しい市史の編さんもその一環として事業が行われています。

本事業は、住民参加による自治体史編さんがコンセプトのひとつになっています。史料調査から整理や保存、執筆に至るまで、各地域にお住いのみなさんが市史編さんの主役です。

そこで本展では、市史編さん活動の様子やこれまで調査した歴史資料の展示を通じて、三木の地域歴史遺産の魅力を紹介いたします。

写真：市史編さんボランティア作業の様子

企画展特別講演会 **ワークショップ**

市民が主役の自治体史 **市史編さん体験～古文書を触ろう～**

日時：平成29年2月26日(日) 13:30～15:00 日時：平成29年3月18日(土) 13:30～15:00
講師：大槻 守 氏(香寺歴史研究室) 講師：市史編さんボランティア旧玉置家住宅文書保存会
会場：みき歴史資料館3階講演室 会場：みき歴史資料館2階市史編さん整理室
定員：先着80名(参加費無料・申込不要) 定員：なし(参加費無料・申込不要)
※当日、茶室協会による煎茶を行います。

2月の月間イベント

歴史講座① 「別所の血を守り抜いた武将～別所重棟について～」

日時：平成29年2月12日(日) 13:30～15:00 会場：みき歴史資料館3階講演室
講師：藤原 孝三 氏(北播磨城郭研究会主宰) 定員：先着80名(参加費無料・申込不要)

ボランティア作業の開放 企画展中は、ボランティア作業を常時公開します。
※活動日は、毎週水曜日・木曜日の午後1時から午後4時までです。

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

【平成 29 年度企画展（年 6 回）】

① 「近世絵図にみる播州三木～別所氏が築いた三木の城・三木の町・そして三木合戦～」

会期	内容	来館者数
平成29年4月15日(土)～6月11日(日)	三木市教育委員会が平成28年度に入手した「播州三木古城図」、「播磨国城攻図」を中心に、近世において様々な目的で作製された三木の町や村々を描いた絵図、三木城跡や三木合戦について考証した絵図、大衆向けに編纂された『絵本太閤記』などの軍記物、播州の名所図会などを展示しました。	3,252人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成29年5月14日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 「絵図の楽しみ～描かれた日本～」 講師：小野田一幸 氏(神戸市立博物館学芸課長)	35人

企画展
会期 | 平成29年 4月15日[土] ~ 6月11日[日]
近世絵図にみる播州三木
別所氏が築いた三木の城・三木の町・そして三木合戦

企画展特別講演会
「絵図の楽しみ～描かれた日本～」
平成29年5月14日(日)13:30～15:00
小野田一幸 氏(神戸市立博物館学芸課長)

三木市立 みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町 4-5
TEL.0794-82-5060
入館無料

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 4月17日(月)、24日(月)
5月1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)
6月5日(月)

企画展特別講演会
「絵図の楽しみ～描かれた日本～」
日時：平成29年5月14日(日)13:30～15:00
講師：小野田一幸 氏(神戸市立博物館学芸課長)
会場：みき歴史資料館3階講義室
定員：先着80名(無料、申込不要)

第2回 歴史ウォーク
「近世絵図であるく三木城跡」
日時：平成29年5月28日(日)9:15～12:00
集合：みき歴史資料館駐車場
定員：なし(無料、申込不要)

会期中の主なイベント

第1回 歴史ウォーク
「法界寺山ノ上付城跡コース」
日時：4月17日(月)13:15～14:30
集合：法界寺境内
定員：なし
※法界寺では、10:00、12:30から「三木合戦軍図解読」を開催します。

みき歴史資料館放映動画の完成試写会
日時：4月22日(土)13:30～15:00
会場：みき歴史資料館3階講義室
ゲスト：安福夢たま 氏(落語家、上方落語協会会員)
定員：先着80名(無料、申込不要)

歴史講座②
「三木合戦入門」
日時：5月5日(金)11:00～12:00
会場：みき歴史資料館2階歴史文化財整理室
講師：宮田逸民 氏(三木市文化財保護審議会委員)
定員：先着50名(無料、申込不要)

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

② 「三木鉄道展」

会期	内容	来館者数
平成29年7月1日(土)～ 8月27日(日)	播州鉄道三木線が全線開通して100年、平成30年は三木鉄道が廃線となって10年目になります。そこで、播州鉄道から三木鉄道の各時代に発行された記念切符、古写真、行政文書などを通じて、三木線の歴史や鉄道をめぐる地域の記憶を紹介しました。	2,421人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成29年7月30日(日) 午後1時30分～午後2時30分	企画展特別講演会「東播磨地域の鉄道」 講師:中西 信 氏(小野市立好古館副主幹)	47人

企画展

会期 平成29年7月1日[土]～8月27日[日]

三木鉄道展

企画展特別講演会
「東播磨地域の鉄道」
平成29年7月30日(日) 13:30～14:30
中西 信 氏(小野市立好古館 副主幹)

三木市立みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5
TEL.0794-82-5060

入館無料

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 暇 日 7月9日(月)、10日(月)、18日(火)、24日(月)、31日(月)、
8月7日(月)、14日(月)、21日(月)

企画展

三木鉄道展

会期:平成29年7月1日[土]～8月27日[日]

三木鉄道は、三木市の第三セクターである三木鉄道株式会社が運営する、加古川市の阪神駅から三木駅まで約6.6km、乗車時間14分ほどのローカル線でした。
大正6年(1917)に播州鉄道三木線が全線開通して今年で100年、来年には三木鉄道が廃線となって10年目に当たります。そこで、本企画展では、播州鉄道から三木鉄道の各時代の鉄道資料、古写真、沿線案内などを通して、三木線の歴史や鉄道をめぐる地域の記憶を紹介します。

担当学芸員による展示解説
日時:① 7月16日(日)14:00～15:00
② 8月12日(土)11:00～12:00
会場:みき歴史資料館2階企画展示室

主な企画展関連イベント

企画展特別講演会 「東播磨地域の鉄道」	日 時: 7月30日(日)13:30～14:30 講 師: 中西 信氏(小野市立好古館 副主幹) 会 場: みき歴史資料館 3階講演室 定 員: 先着80名(無料、申込不要)
第5回 歴史ウォーク 「三木鉄道の廃線(別所ゆめ街道)をあるく」	日 時: 8月20日(日)9:00～12:00 コ ー ス: 三木鉄道ふれあい館→別所ゆめ街道→石野の切通し→別所ふるさと交流館 集合場所: 三木鉄道ふれあい館 解散場所: 別所ふるさと交流館(下石野停留所から12分6分発車比須駅行きのバスがあります) 定 員: 先着80名(無料、申込不要)
三木鉄道ふれあい館 「第8回納涼夕涼み会」	日 時: 7月22日(土)10:00～21:00(雨天の場合は翌日に順延) 会 場: 三木鉄道記念公園 問合せ先: 三木鉄道三木駅周辺を元気にする会(0794-82-9900)

■ 会期中の主なイベント

第4回 歴史ウォーク 「城下町ウォーク」	日 時: 7月9日(日)9:00～12:00 コ ー ス: 神戸電鉄北須賀駅→場の山街道→三木城跡→田玉屋家住宅→三木鉄道記念公園→神戸電鉄三木駅 集合場所: 神戸電鉄北須賀駅 解散場所: 神戸電鉄三木駅 定 員: なし(無料、申込不要)
夏休み子どもイベント	-7月23日(日)9:00～12:00 夏休み子ども歴史教室(バスター) 先着20名(要申込・無料) -7月29日(土)、8月12日(土)13:30～15:00 親子勾玉づくり 各日先着10組(要申込・380円) -7月30日(日)9:30～11:30 親子火おこし体験 定員なし(申込不要・無料) -8月6日(日)14:00～16:00 2次仏壇参拝 先着16名(要申込・1500円) -8月19日(土)13:30～15:00 兜をつくらう 先着10組(要申込・700円) -7月21日(金)～8月31日(木) 本物を触らう -8月8日(火)～8月27日(日) みき歴史資料館内クイズラリー

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

③ 「岩壺神社の祭り屋台展」

会期	内容	来館者数
平成29年9月9日(土)～ 10月22日(日)	岩壺神社の秋祭りで奉納する祭り屋台について、堀光美術館が寄託を受けている屋台用具を展示するとともに、古文書や古写真などの歴史資料を通じて、岩壺神社と秋祭りを紹介しました。	1,668人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成29年9月24日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 「三木の祭りとタイコ」 講師：横山隆史 氏(祭り屋台研究家)	63人

企画展

旧水引幕(岩宮屋台)

岩壺神社の
祭り屋台展

岩壺神社秋祭例大祭
写真提供：横山カメヲ

旧高懸掛け
(清原町屋台)

企画展特別講演会
「三木の祭りとタイコ」
平成29年9月24日(日)13:30～15:00
横山 隆史 氏(祭り屋台研究家)

会期 平成29年 9月9日(土)
～10月22日(日)

三木市立 **みき歴史資料館**
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL.0794-82-5060

入館無料

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 9月11日(月)、19日(火)、25日(月)
10月2日(月)、10日(火)、16日(月)

企画展

岩壺神社の
祭り屋台展

会期：平成29年 9月9日(土)～10月22日(日)

10月は秋祭りの季節、播州三木の秋祭りが始まります。三木の祭りを彩る屋台は、大工、刺繍、木彫り、鍍金具といった職人の技が見える華やかなものです。本展では、岩壺神社の秋祭例大祭に奉納される屋台の水引幕や高懸掛けといった屋台衣裳とともに、三木市有宝蔵文書などの歴史資料を通じて、秋祭りや祭り屋台をめぐる民俗誌をご紹介します。

担当学芸員による展示解説
日時：① 9月10日(日)14:00～15:00
② 10月21日(土)11:00～12:00
会場：みき歴史資料館2階企画展示室

企画展関連イベント

企画展特別講演会
「三木の祭りとタイコ」
日時：9月24日(日)13:30～15:00
講師：横山 隆史 氏(祭り屋台研究家)
会場：みき歴史資料館 3階講座室
定員：先着80名(無料、申込不要)

■会期中の主なイベント

体験教室
「染形紙を彫る」
日時：9月16日(土)13:30～15:00
講師：三木の染形紙の保存と活用を考える会
会場：みき歴史資料館3階 市民活動支援室
定員：先着15名(参加費500円、要申込)

体験教室
「染形紙で染める」
日時：9月23日(土)13:30～15:00
講師：三木の染形紙の保存と活用を考える会
会場：みき歴史資料館3階 市民活動支援室
定員：先着15名(参加費1,000円、要申込)

歴史講座
「史書で汚れた文書の乾かし方」
日時：10月14日(土)13:30～15:00
講師：尾立 和樹 氏(文化財保存修復師)
会場：みき歴史資料館2階市史館さん整理室
定員：なし(無料、申込不要)

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

④ 「地域の史料たちⅡ～みんなが主役の市史編さん～」

会期	内容	来館者数
平成29年11月11日(土)～ 12月24日(日)	自治会所蔵文書や個人所蔵文書などから、江戸から昭和・戦後に至る村の様子分かる史料を紹介しました。	1,295人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成29年12月10日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 『新三木市史』と歴史を活かしたまちづくり 講師:奥村 弘 氏(神戸大学大学院人文学研究科教授)	42人

企画展
地域の史料たちⅡ
みんなが主役の市史編さん
平成29年11月11日[土]～12月24日[日]

あれも これも 歴史資料

企画展特別講演会
『新三木市史』と歴史を活かしたまちづくり
平成29年12月10日(日)13:30～15:00
奥村 弘 氏 (神戸大学大学院人文学研究科教授)

三木市立 **みき歴史資料館**
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL.0794-82-5060

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 11月13日(月)、20日(月)、24日(金)、27日(月)
12月4日(月)、11日(月)、18日(月)

入館無料

企画展
地域の史料たちⅡ
会期：平成29年11月11日[土]～12月24日[日]

現在、三木市では、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターと連携して市史編さん事業を行っています。昭和45年に発行された『三木市史』、『吉川町誌』以来、およそ半世紀ぶりに地域の歴史を全体としてまとめることとなります。

本事業は、住民参加による自治体史編さんがコンセプトのひとつになっています。三木市内におけるそれぞれの地域の身近な歴史、文化、体験を残すため、従来の自治体史に加えて、各地域の『地域編』を刊行する予定です。史料調査から整理や保存、執筆に至るまで、各地域にお住いの皆さんが市史編さんの主役なのです。

本展では、市史編さん活動の様子や地域編の取組、これまで調査した歴史資料の展示を通じて、三木の地域歴史遺産の魅力を紹介します。

写真右・中央：市史編さんボランティア作業風景
左：地域編口吉川部会協議の様子

企画展関連イベント

企画展特別講演会
『新三木市史』と歴史を活かしたまちづくり
日時：平成29年12月10日(日)13:30～15:00
会場：みき歴史資料館3階講座室
講師：奥村 弘 氏 (神戸大学大学院人文学研究科教授)
市史編さん委員会委員長
会場：みき歴史資料館3階講座室 定員：先着80名(無料、申込不要)

表部写真
1：口吉川小学校文庫
2：個人所蔵文書
3：三木市の歴史的公文書
4：平田氏文書
5：遺存文書(口吉川町)

企画展中は、ボランティア作業を常時公開します
※活動日は毎週水・木曜日の13:00～16:00です(都合により休み場合があります)

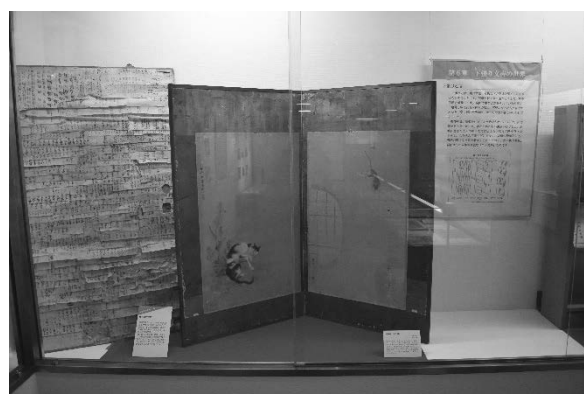
■会期中の主なイベント

金物資料館 特別企画展運動講座 【三木の鐘について】 日時：11月12日(日)13:30～14:30 会場：みき歴史資料館3階講座室 講師：尾川 大造氏(信濃工業社) 定員：先着80名(申込不要 無料)	歴史講座⑦ 【遺跡から見た三木合戦】 日時：12月17日(日)13:30～15:00 会場：みき歴史資料館3階 講師：谷松 誠(文化スポーツ振興課 主任) 定員：先着80名(申込不要 無料)
歴史ウォーク⑥ 【歴史跡 秀吉本陣跡(平井山/上付城跡)コース】 日時：12月24日(日)9:15～12:00 コース：志比須駅→秀吉本陣跡→竹中半兵衛陣跡→竹中半兵衛の墓→志比須駅 集合場所：志比須駅 解散場所：志比須駅 講師：宮田 透氏(三木市文化財保護審議会副会長) 定員：なし(申込不要 無料)	スポーツ・チャリティ 【長治公を守れ!～三木合戦リベンジ～】 日時：11月25日(日)13:30～16:00 会場：みき歴史資料館 三木城本丸跡 集合場所：みき歴史資料館 指導：三木甲冑倶楽部 対象：小学校3年生から中学校3年生まで 定員：先着20名(要申し込み、500円) 申込：先：みき歴史資料館まで電話申込

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



展示風景

⑤ 「三木地区の遺跡」

会期	内容	来館者数
平成30年1月13日(土)～ 2月11日(日)	三木地区で実施された遺跡の発掘調査の成果について、出土遺物や写真パネルを通じて、三木地区の歴史を紹介しました。	864人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成30年1月28日(日) 午後1時30分～午後3時	企画展特別講演会 「近年の市内遺跡発掘調査の成果について」 講師:金松 誠(文化スポーツ振興課主任)	25人

企画展
三木地区の遺跡
平成30年1月13日[土]～2月11日[日]

厚藏鉢が入っていた
瀬戸灰陶磁器
(昭和33年 大塚出土)

石杖(与呂木古墳)

厚藏鉢と須恵器(昭和40年頃 大塚出土)

企画展特別講演会
「近年の市内遺跡発掘調査の成果について」
平成30年1月28日(日) 13:30～15:00
金松 誠(三木市教育委員会文化スポーツ振興課主任)

三木市立 みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL.0794-82-5060

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 1月15日(月)、22日(月)、29日(月)
2月5日(月)

入館無料

企画展
三木地区の遺跡
平成30年1月13日[土]～2月11日[日]

概ね旧三木町北中部で構成される三木地区には、約300か所の遺跡が確認されています。これまで多くの遺跡で発掘調査が実施されてきましたが、その成果を公開する機会が限られていたため、内容についてはあまり知られていません。そこで、このたび、三木地区の遺跡を広く知っていただくため、本展を企画しました。本展では、三木地区で実施された遺跡の発掘調査の成果について、出土遺物や写真パネルを通じて、三木地区の歴史を紹介します。

与呂木古墳全景

方形周溝墓(徳原岡/下遺跡)

企画展関連イベント
企画展特別講演会
「近年の市内遺跡発掘調査の成果について」
日時:平成30年1月28日(日) 13:30～15:00
講師:金松 誠(三木市教育委員会文化スポーツ振興課主任)
会場:みき歴史資料館 3階講座室
定員:先着80名(無料、申込不要)

■会期中の主なイベント
歴史講座⑧「別所長治公追悼講座 長治が切腹した日」
日時:1月21日(日) 13:30～15:00 講師:宮田 逸民さん(三木市文化財保護審議会副会長)
会場:みき歴史資料館 3階講座室 定員:先着80名(無料、申込不要)

地蔵遺構(久保美遺跡)

企画展 ちらし(表・裏)



展示風景



展示風景

⑥ 「玉置家文書と近代の三木」

会期	内容	来館者数
平成30年2月24日(土)～ 3月25日(日)	旧玉置家住宅文書保存会の協力を得て、旧玉置家に保管されている資料群の中から、古文書、襖の下張、古写真、絵葉書など、多様な展示を通じて、玉置家の人々と近代における各時代の三木町の様子を紹介しました。	1,679人

〔関連事業〕

日時	内容	参加者数
平成30年3月10日(日) 午後1時30分～午後3時30分	企画展特別講演会 「座談会 私たちと玉置家の資料群」 講師:進藤輝司 氏(旧玉置家住宅文書保存会)、 久斗政光 氏(旧玉置家住宅文書保存会)、 尾立和則 氏(文化財保存修復師)、 與倉秀顕(三木市職員)	31人

企画展
玉置家文書と近代の三木
会期
平成30年2月24日(土)～
3月25日(日)

企画展特別講演会
「座談会 私たちと玉置家の資料群」
講師:進藤輝司 氏(旧玉置家住宅文書保存会)、
久斗政光 氏(旧玉置家住宅文書保存会)、
尾立和則 氏(文化財保存修復師)、
與倉秀顕 氏(三木市職員)

三木市立 **みき歴史資料館**
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL.0794-82-5060
入館無料

企画展
玉置家文書と近代の三木
平成30年2月24日(土)～3月25日(日)

どんな会
玉置家文書とは、初代玉置大藏から4代目周蔵の時代にかけて作成・蓄積・伝えた文書群である。玉置家は、元禄邸であった初代大藏が親戚より引継いだ金融業で資産と、地域との宗教的なつながりから名望を構築し、晩年の福蔵(3代目)の時代には、町の名士となり、玉置家は「地方名望家」となった。このため、玉置家の資料群からは、玉置家の人々の生活や、各個人の活動の様子が窺えるだけでなく、近代の三木町の様子が見えてくる。本企画展では、「旧玉置家住宅文書保存会」の協力を得て、旧玉置家に保管されている多様な資料群の中から、古文書、古写真、絵葉書などの展示を通じて、玉置家の人々と近代における各時代の三木町の様子を紹介したい。

企画展関連イベント
企画展特別講演会
「座談会 私たちと玉置家の資料群」
講師:進藤輝司 氏(旧玉置家住宅文書保存会) 尾立和則 氏(文化財保存修復師)
久斗政光 氏(旧玉置家住宅文書保存会) 與倉秀顕 氏(三木市職員)
日時:平成30年3月10日(日)13:30～15:30
会場:みき歴史資料館 3階講座室

会期中の主なイベント
お楽しみスタンプラリー
期間:平成30年2月25日(日)～3月4日(日)
会場:中央公民館/旧玉置家住宅/旧小河家住宅/中央図書館/観光美術館/みき歴史資料館
内容:6つの各会場のスタンプをすべて集めて、好きな会場でプレゼントと交換しよう。 ※詳細は各会場に設置する案内を参照

宮田逸民氏「ともしび賞」受賞記念講演
題目:「市内に残る戦(イクサ)の跡」
講師:宮田 逸民氏(三木市文化財保護審議会副会長)
日時:平成30年3月17日(土)13:30～15:00
会場:みき歴史資料館 3階講座室
定員:先着80名(無料、申込不要)

体験教室
「大福帳をつくる」
講師:尾立和則 氏(文化財保存修復師)
日時:平成30年3月3日(土)13:30～15:00
会場:みき歴史資料館 3階市民活動支援室
定員:先着16名(300円、要電話申込)

歴史講座⑧
「三木の義民伝承について私が見る2,3の事情」
講師:長谷川 契博(みき歴史資料館 学芸員)
日時:平成30年3月24日(土)13:30～15:00
会場:みき歴史資料館 3階講座室
定員:先着80名(無料、申込不要)

企画展 ちらし (表・裏)



展示風景



企画展特別講演会の様子

3 ボランティア

資料館の展示解説を行う「みき歴史資料館ボランティア」を組織し、原則、毎週日曜日に活動しています。また、さらなる資質の向上を図るため、ボランティア打ち合わせ会や視察研修を開催しています。

4 年間イベント（歴史講座、歴史ウォーク、体験教室等）

三木の歴史や文化をアピールし、リピーターの拡大を図るため、市内外の方々が気軽に訪れることができるイベントを開催しています。

【平成 28 年度】

月	日	曜日	もよおし	参加者数
5	7	土	バスで巡る現地見学会(史跡)	12人
			親子で甲冑着付け体験 講師:三木甲冑倶楽部	10人
	14	土	バスで巡る現地見学会(古墳)	12人
			陶芸教室 講師:山本 靖 氏	15人
	15	日	歴史講座①「三木城について」 講師:金松 誠(文化スポーツ振興課主任)	27人
			「三木合戦軍図絵解き」実演 講師:生田淳仁 氏	33人
	21	土	歴史ウォーク②「城下町東コース」	6人
			勾玉づくり 講師:兵庫県立考古博物館ボランティア	11人
	22	日	歴史講座②「市史編さんとまちづくり」 講師:川内淳史 氏(神戸大学大学院人文学研究科特命講師)	26人
			錫のアクセサリー 講師:藤原義明 氏	12人
28	土	歴史ウォーク③「城下町西コース」	5人	
		自分の印を作ろう 講師:山谷翠泉 氏	9人	
29	日	歴史講座③「播磨国風土記」 講師:廣井愛邦(文化スポーツ振興課主査)	35人	
6	11	土	一閑張りの器づくり 講師:尾立和則 氏(三木市文化財保護審議会委員)	10人
	19	日	歴史ウォーク④「三木城を極めるコース」	20人
	26	日	土器洗い体験 講師:畠中 剛(三木市職員)	4人
7	3	日	歴史講座④「高木古墳群の発掘調査成果」 講師:金松 誠	18人
	24	日	夏休みこども歴史教室① 「三木城跡、秀吉本陣、法界寺を巡る」	13人

7	24	日	一閑張りの器づくり 講師:尾立和則 氏	10人
	31	日	親子で勾玉づくり 講師:みき歴史資料館職員	34人
8	2 3 4	火 水 木	夏休みこども自由研究相談所 全3回	4人
	6	土	歴史講座⑤「絵図の世界」 講師:長谷川奨悟(みき歴史資料館学芸員)	23人
	7	日	夏休みこども歴史教室② 「愛宕山古墳、正法寺古墳群等を巡る」	9人
	28	日	歴史ウォーク⑤ 国史跡「ホースランドパーク周辺付城跡コース」	12人
9	10	土	歴史講座⑥「戦時下の村のくらし」 講師:吉原大志(文化スポーツ振興課専門員)	34人
	17	土	ワークショップ マイ箸づくり 講師:田中和男 氏	9人
	25	日	ワークショップ 花かごをつくろう 講師:戸田和孝 氏	12人
10	14 21 28	金	歴史講座⑦ 全3回 古文書入門講座「はじめてのくずし字」 講師:近都兼司(文化スポーツ振興課専門員)	66人
	23	日	歴史ウォーク⑥「東吉川の文化財と民話を訪ねて」 講師:藤田 均 氏(よかわ歴史サークル代表)	34人
	29	土	ワークショップ 和太鼓に挑戦 講師:三木太鼓	13人
11	5 6	土 日	わくわくクイズラリー①②(金物まつり協賛)	186人
	12	土	金物資料館特別企画展共催講座 「三木の匏の歴史について」 講師:山本芳博 氏(伝統工芸士)	25人
	20	日	歴史講座⑧「若宮神社の屋台を語る」 講師:横山隆史 氏(祭り屋台研究家)	43人
	27	日	歴史ウォーク⑦ 「慈眼寺山城跡・跡部村山ノ下付城跡コース」	雨天中止
12	10	土	ワークショップ 染形紙を彫る 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会	17人
	11	日	歴史ウォーク⑧「秀吉本陣跡コース」	24人
			ワークショップ しめ縄を作ろう 講師:中西重喜 氏	16人
	17	土	ワークショップ クリスマスに飾ろう 講師:みき歴史資料館職員	9人
23	金	ボランティア企画 お城の大掃除	36人	
1	15	日	ギャラリートーク 「染形紙の世界」 講師:筒井俊雄 氏(ギャラリー湯の山みち館長)	16人

1	21	土	歴史講座⑨ 「江戸時代の観光ガイドブックについて」 講師:長谷川奨悟	30人
	22	日	ワークショップ 染形紙で染める 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会	14人
	28	土	歴史講座⑩「三木城包圍網」 講師:宮田逸民 氏(三木市文化財保護審議会委員)	58人
	29	日	ワークショップ 染形紙で染める 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会	16人
2	12	日	歴史講座⑪ 「別所の血を守り抜いた武将～別所重棟について～」 講師:藤原孝三 氏(北播磨城郭研究会主宰)	88人
	26	日	雛祭り呈茶 協力:三木市茶道協会	150人
2/19～3/3			お雛さまスタンプラリー (堀光美術館お雛さま展協賛)	28人
3	4	土	歴史講座⑫ 「吉川の江戸時代～7つの藩領に別れた農民たち～」 講師:藤田 均 氏	62人
	11	土	ひな祭りを彩ろう～貝に描くお雛さま～ 講師:平山三千代 氏(日本デコラティブペインティング協会 会員)	14人
	18	土	市史編さん体験～古文書を触ろう～ 講師:市史編さんボランティア 旧玉置家住宅文書保存会	25人
	25	土	古代体験 勾玉づくり 講師:みき歴史資料館職員	4人
	26	日	秀吉本陣与呂木大手道整備記念ウォーク	28人

年間合計 1,427人



歴史ウォーク⑧「秀吉本陣跡コース」



ひな祭りを彩ろう
～貝に描くお雛さま～

【平成 29 年度】

月	日	曜日	もよおし	参加者数
4	8	土	歴史講座①「絵図の修復について」 講師:尾立和則 氏(三木市文化財保護審議会委員)	24人
	17	月	歴史ウォーク①「法界寺山ノ上付城跡コース」	雨天中止
	22	土	館内放映動画完成試写会 ゲスト:笑福亭たま 氏(落語家 上方落語協会会員)	80人
	29	土	企画展 展示解説① 講師:長谷川奨悟(みき歴史資料館学芸員)	5人
5	5	金	歴史講座②「三木合戦入門」 講師:宮田逸民 氏(三木市文化財保護審議会委員)	61人
	28	日	歴史ウォーク②「近世絵図であるく三木城跡」	25人
6	3	土	企画展 展示解説② 講師:長谷川奨悟	30人
	10	土	歴史講座③ 「企画展～近世絵図に見る播州三木～を開催して」 講師:長谷川奨悟	21人
	18	日	歴史ウォーク③「ホースランドパーク周辺付城跡コース」	26人
7	9	日	歴史ウォーク④「城下町エリア散策コース」	6人
	16	日	企画展 展示解説① 講師:長谷川奨悟	20人
	23	日	夏休みこども歴史教室 「市内の歴史遺産をめぐるバスツアー」	6人
	29	土	親子勾玉づくり① 講師:みき歴史資料館職員	4人
	30	日	親子火おこし体験 講師:みき歴史資料館職員	13人
8	6	日	子ども陶芸教室 講師:喜多千景 氏(陶芸家)	11人
	12	土	親子勾玉づくり② 講師:みき歴史資料館職員	23人
	19	土	兜をつくろう 講師:三木甲冑倶楽部	10人
	20	日	歴史ウォーク⑤ 「三木鉄道の路線跡(別所ゆめ街道)を歩く」	16人
	26	土	歴史講座④「鉄道と旅行」 講師:長谷川奨悟	20人
8/8～8/27			夏休みクイズラリー	80人
9	10	日	企画展 展示解説① 講師:長谷川奨悟	5人
	16	土	体験教室「染形紙を彫る」 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会	10人
	23	土	体験教室「染形紙で染める」 講師:三木の染形紙の保存と活用を考える会	10人

10	14	土	歴史講座⑤「災害で汚れた文書の乾かし方」 講師:尾立和則 氏	11人
	21	土	企画展 展示解説② 講師:長谷川奨悟	2人
	29	日	歴史講座⑥「タイコあれこれ」 講師:山田貴生 氏(小学校教員・民俗学)	15人
11	4 5	土 日	金物まつりスタンプラリー	173人
	12	日	金物資料館特別企画展連動講演会 「三木の鋸について」 講師:光川大造 氏(伝統工芸士)	14人
	25	土	スポーツ・チャンバラ 「長治公を守れ!三木合戦 リベンジ」 指導・着付:三木甲冑倶楽部	36人
12	9	土	体験講座「綿くり体験」 講師:みき歴史資料館職員	13人
	17	日	歴史講座⑦「遺跡から見た三木合戦」 講師:金松 誠(文化スポーツ振興課主任)	40人
	24	日	歴史ウォーク⑥ 「国史跡 秀吉本陣(平井山ノ上付城跡)コース」 講師:宮田逸民 氏	21人
1	21	日	歴史講座⑧ 「別所長治公追悼講座 長治が切腹した日」 講師:宮田逸民 氏	44人
2	3	土	体験講座「勾玉を作ろう」 講師:みき歴史資料館職員	4人
	17	土	歴史講座⑨「未来に残す吉川の戦争の記憶」 講師:藤田 均 氏(よかわ歴史サークル代表)	18人
2/25~3/4			お雛さま展スタンプラリー	35人
3	3	土	体験教室「大福帳を作ろう」 講師:尾立和則 氏	8人
	17	土	兵庫県「ともしびの賞」受賞記念講演 「市内に残る戦(イクサ)の跡」 講師:宮田逸民 氏	112人
	24	土	歴史講座⑩ 「三木の義民伝承について私が考える2,3の事柄」 講師:長谷川奨悟	25人

年間合計 1,140人



体験教室「大福帳を作ろう」



スポーツ・チャンバラ
「長治公を守れ！三木合戦 リベンジ」

5 施設管理

【平成28年度】

実施日	内容
9月26日～28日	3階収蔵庫の既存書架撤去作業
11月4日	1階、2階防犯カメラ移設工事
平成29年2月1日～6日	2階企画展示室及び1階～3階階段壁面クロス張替工事
平成29年3月27日～28日	1階常設展示室、2階企画展示室、新規展示ケース設置

【平成29年度】

実施日	内容
8月7日～10日	1階トイレ和式便器3基を洋式便器に交換し、L型手摺を増設 多目的トイレに暖房便座設置
11月30日	空調機空冷チラー設備修理
平成30年3月22日	旧上の丸庁舎の収蔵コンテナを歴史資料館へ移動

6 収集事業

寄付金による購入

【平成28年度】

「播州三木古城図」、「播磨国城攻図」、展示ケース 4点

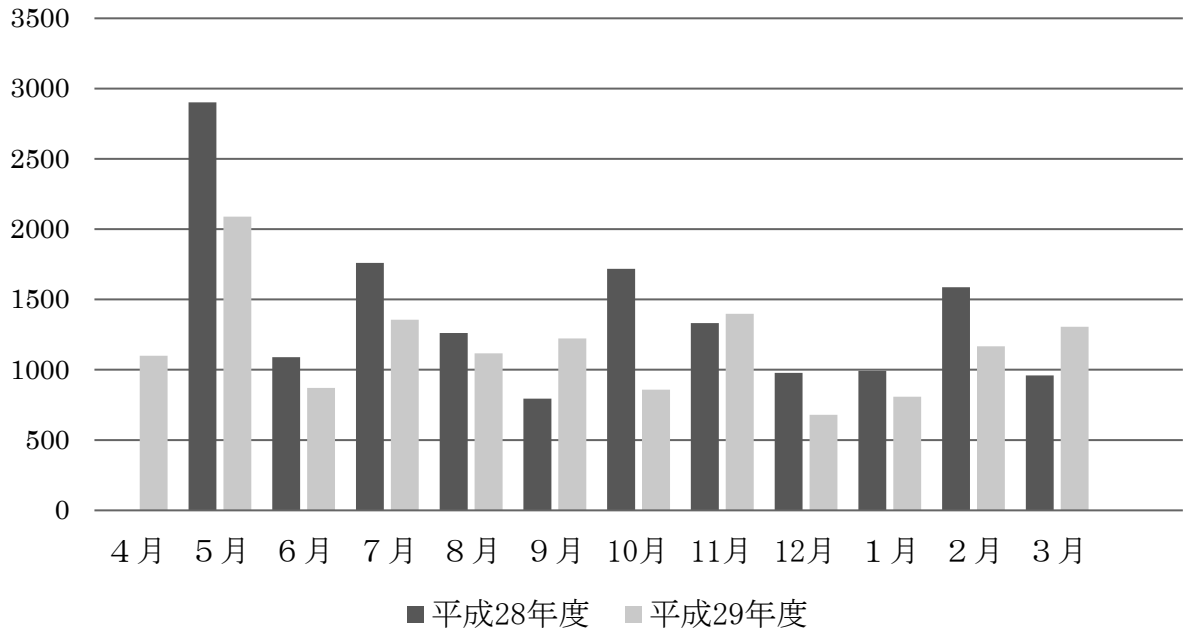
【平成29年度】

「仮名性理竹馬抄」、「惺窩先生文集」

7 入館者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	来館者数 (単位:人)	0	2,902	1,089	1,760	1,261	794	1,718	1,332	978	992	1,587	959	15,372
	来館者数 (単位:日)	0	22	26	27	25	23	26	24	23	23	24	27	270
平成29年度	来館者数 (単位:人)	1,099	2,089	871	1,356	1,117	1,223	858	1,398	679	808	1,167	1,306	13,971
	来館者数 (単位:日)	26	26	26	26	27	26	26	25	24	23	24	26	305

入館者数の推移



IV 管理運営

三木市の歴史に関する調査研究・資料の収集保管の拠点となるとともに、市民をはじめ多くの人々の利用・活動の場となるため、施設の業務を効率的かつ円滑に行い、計画的な管理運営を目指しています。

1 管理運営方式と体制

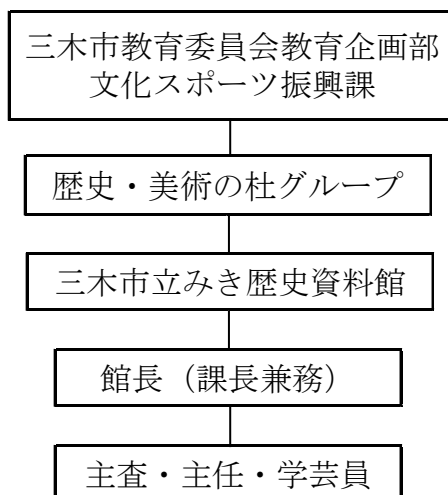
(1) 運営方式

資料館の運営にあたっては、教育委員会が直営で行っています。

(2) 運営体制

資料館の業務は、文化スポーツ振興課歴史・美術の杜グループが運営しています。

2 組織図



3 職員構成

【平成 28 年度】

職名	氏名
館長（課長兼務）	堀内基代
主査（グループ長）	前田幹夫
主任	金松 誠
学芸員（嘱託）	長谷川奨悟

【平成 29 年度】

職名	氏名
館長（課長兼務）	高嶋信行
主査（グループ長）	前田幹夫
主任	金松 誠
学芸員（嘱託）	長谷川奨悟

4 資料館協議会

資料館の充実した運営を図るため、資料館協議会を設置しています。みき歴史資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べます。

【平成 28 年度】

役職	氏名	所属等	協議会開催日
会長	川内淳史	学識経験者	第 1 回 平成28年 8 月 31 日 第 2 回 平成29年 2 月 22 日
副会長	進藤輝司	市内教育・学術・文化団体の代表	
委員	藤尾真逸	市内教育・学術・文化団体の代表	
委員	上中澄子	市内学校長の代表者	
委員	安藤一成	一般公募	
委員	松下君子	一般公募	

(敬称略)

【平成 29 年度】

役職	氏名	所属等	協議会開催日
会長	川内淳史	学識経験者	第 1 回 平成29年11月15日 第 2 回 平成30年 2 月27日
副会長	進藤輝司	市内教育・学術・文化 団体の代表	
委員	藤尾真逸	市内教育・学術・文化 団体の代表	
委員	上中澄子	市内学校長の代表者	
委員	安藤一成	一般公募	
委員	松下君子	一般公募	

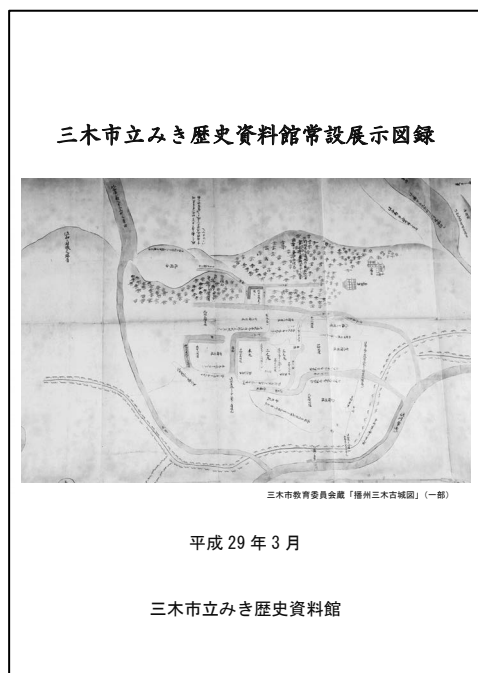
(敬称略)

V 刊行物等

1 刊行物

【平成 28 年度】

『三木市立みき歴史資料館常設展示図録』



刊行部数 1,500 部

A 4 判 56 頁

平成 29 年 3 月 31 日発行

1 冊 600 円

【平成 29 年度】

『近世絵図にみる播州三木―別所氏が築いた三木の城・三木の町・そして三木合戦―』



刊行部数 700 部

A 4 判 19 頁

平成 29 年 4 月 15 日 発行

1 冊 300 円

2 館内放映動画作成

【平成 28 年度】

「三木八つつあんの三木四十景～三木市の指定文化財 40 選～」

「三木合戦～天下の合戦から、天下の金物産地まで～」

紀
要

法界寺「東播八郡総兵別所府君墓表」について

—— 釈文・読み下し・解説および墓碑建立にいたる背景 ——

依 藤 保

はじめに

三木市別所町東這田の浄土宗西山禅林寺派の寺院虚空山法界寺は、三木合戦に敗死した別所長治の菩提を弔う寺として知られる。忌日に法要を催し、合戦絵図により当時の戦況を語る絵解きが行なわれる。境内の一面（東這田字生木五一番の地先）に「東播八郡総兵別所府君墓表」（以下「墓碑」という）がある。その刻銘によつて、延宝六年（一六七八）正月十七日に、美囊（三木）郡内一二村の里長と法界寺住持禪空素伯が衆縁を募つて建立したことがわかる。



墓碑正面

墓碑は長年にわたり外気にさらされ、風雨・日光・寒暖差の影響もあつて、劣化が進んでいる。最下部は雨水や湿気の滞留による剥離・剥落が激しい。このため刻銘の一部が失われている。文政十二年（一八二九）春に法界寺へ寄附された拓本を見ると、この時期すでに剥離・剥落が始まつていたことがわかる。ほかは、風化がみられるものの、三四〇年以上の年月が経過している割には良い状態にあり、碑文の判読が可能である。

墓碑本体の材質は砂岩。法量は、正面幅七六cm、背面幅七〇・五cm、高さ一五二cm超、厚さ三一cm。三段の台石上に座すが、上台と中台は後補。笠も後補。碑文はすべて陰刻。碑文の作者は、木下順庵の高弟で、京都在住の柳川順剛。藤原惺窩のひ孫弟子にあたる儒学者。近江柳川（彦根市）出身なので「江東 柳 順剛」と記している。なお、法界寺入口に花崗岩製の巨大な副碑が建立されているが、復刻の銘文は若干相違する。

墓碑は令和元年十一月二十日に有形文化財（建造物）として三木市指定文化財に指定された。私はこの指定にあたって法界寺所蔵の拓本に基づいて釈文と読み下し文を作成し、所見を述べる機会を得た。小稿はこれをもとに若干加筆し、墓碑建立にいたる背景についても検討したい。

碑文の部分釈文と読み下し文

君子之觀人、不必以成敗・興亡、而定其論、蓋復取其義之當與不當焉、夫成敗勢也、興亡天也、在天在勢者、非人之所能、其惟顧其志之所在何如而已、

君子の人を觀るに、必ずしも成敗・興亡を以てせず。而して其の論を定むるに、蓋し復た其の義の當と不当とを取るなり。夫れ成敗は勢なり。興亡は天なり。天に在り勢に在るは、人の所能に非ず。其れ惟だ其の志の所在の何如を顧みるのみ。

*成敗||成功と失敗。 *興亡||盛衰。 *當||道理にかなっていること。
*勢||時勢。 *天||天運。 *所能||十分にできるものごと。

府君、姓源、氏別所、諱長治、世之所謂赤松圓心之裔、而其先出於村上帝、圓心之孫敦範、爲別所氏、屬赤松麾下、貞和五年、大樹尊氏公、以播州佐用豊福邑賜敦範、此乃府君之囊祖也、高祖大藏少輔、諱則治、盡忠於其主政則、英譽芬郁、

府君、姓は源、氏は別所、諱は長治、世の所謂赤松圓心の裔にして、而して其の先は村上帝より出づ。円心の孫敦範、別所氏と爲りて、赤松の麾下に属す。貞和五年(一三四九)、大樹尊氏公、播州佐用「莊」の豊福邑を以て敦範に賜ふ。此れ乃ち府君の囊祖なり。高祖大藏少輔、諱は則治、忠を其の主政則に尽くして、英譽芬郁たり。

*府君||領主の尊称。 *諱||生前の名。忌名。 *麾下||指揮下にあること。指揮下にある者。 *大樹||征夷大將軍。 *邑||むら(村)。
さと。 *囊祖||先祖・祖先。なお、敦範の項は「赤松別所大藏少輔則治公肖像贊」(天隱龍沢『翠竹真如集』)からの引用。 *高祖||家の祖。
ここでは三木城主赤松別所氏の祖。 *芬郁||香りの高いさま。におい

の盛んなさま。 *なお、過去に翻刻された釈文は、明治二十九年正月十七日三木順治書(三木文庫『圖説三木戦記』所収写真)を除き、平野庸脩『播磨鑑』(一七六二)を始めとして、すべて「佐用豊福邑」を「佐用豊福二邑」と誤写している。かつて私は「二邑」を柳川順剛の所為と誤解して論述した。原典確認の基本を怠ったことを反省している。

初圓心、属足利氏有功勞、而賜播州及旁近數州、曾孫滿祐、傳領播・備・作三州之地、嘉吉之弑逆也、赤松氏幾殲、
初め円心、足利氏に属して功勞有り。而して播州及び旁近の數州を賜ふ。曾孫滿祐、播・備・作三州の地を伝領す。嘉吉の弑逆するや、赤松氏幾ど殲ぶ。

*嘉吉之弑逆||嘉吉元年(一四四二)六月二十四日に、赤松滿祐が室町幕府六代將軍足利義教を暗殺した事件。 弑逆||臣下など目下の者が目上の者を殺すこと。

長祿・應仁之際政則勃興、文明之末、但州之兵入播州、州兵失利政則敗走、則治、護政則來京師、密謀秘計、聞于東山相公、請、討但兵以復舊國、相公許之、於是、奉政則歸播州、與但兵相持者五年、但兵夜遁、播州盡平、備州・作州相次克復、赤松氏之騰茂繫則治是賴、政則、感其忠誠、割膏腴之地封之、遂以東播八郡隸其管下、居三木城、而則治之威名大震方國、曾祖某相繼克厥家、
長祿・応仁の際政則勃興す。文明の末、但州の兵播州に入る。「播」

州兵利を失ひ政則敗走す。則治、政則を護りて京師に來り、密かに秘計を謀りて、東山相公に聞し、請ふらくは、「但「州」兵を討ちて以て旧國を復せむことを。」。相公之を許す。是に於て、政則を奉じて播州に歸り、但「州」兵と相持すこと五年。但「州」兵、夜遁

げ、播州こしじ 尽たひらく平ひらぎ、備州・作州相次いで克復す。赤松氏の騰とう茂もは緊こ則れ治ちに是これれを頼よる。政則、其の忠誠を感じ、膏腴こうゆの地を割わきて之これに封むすず。遂に東播八郡を以て其の管下に隸したがへ、三木城に居る。而して則治の威名大いに方国ほうこくに震ふるふ。曾祖そうそ「父」某相ぼうひ継つぎて厥その家を克よくす。

*長祿ちやうりやく 長祿の変。長祿元年（一四五七）二月二日、赤松氏遺臣らが後南朝の行宮を襲い、南朝皇胤の自天王と忠義王の兄弟を討つて、神璽しんせいを持ち去つた事件。 *応仁おうえん 応仁の乱。応仁元年（一四六七）に起こり、文明九年（一四七七）までの約一年間にわたつて続いた内乱。 *勃興はくせい 興きにわかに勢せいいを得て盛さかんになること。 *京師きやうし みやこ。京都。

*東山相公とうざんそうこう 東山殿。室町幕府八代將軍足利義政、義教の子。 *夜遁やとん げ げ 一つの間に逃にげげて居ゐなくなること。 *騰茂とうぼう 繁榮。 *膏腴こうゆ 地味ぢみが肥こえているさま。則治の項で引用される「赤松別所大蔵少輔則治公寿像贊」の写本は「膏腴」と誤写。『五山文学新集』所収本には「膏腴」とある。 *威名いめい 威勢いせいがあるという名声・評判。 *方国ほうこく 国家。 *曾祖そうそ 曾祖父。ここでは則治の子。その法諱は耕月、通称は小三郎。耕月の讚を茂叔集樹が書いているが、現在のところ見つかっていない。 *克よく よくする。

乃祖加賀守、諱就治、勇有智略、信愛御衆、大永之初邦内搶攘、兄弟・親戚各懷異志、就治能處其間、撫順誅逆、遂致蕩平、雲州尼子氏率大兵入播州、所至城堡、望風而遁、惟三木一城固守不降、州有叛者、借兵三好氏攻三木城累月、就治大戰敗之、別所氏世、有人可謂盛矣、

乃祖加賀守、諱は就治（村治）、勇にして智略有り、信愛にして衆を御す。大永（一五二一〜一五二八）の初め邦内搶攘し、兄弟・親戚

各異志を懷く。就治能く其の間に処し、順を撫し逆を誅し、遂に蕩平を致す。雲州の尼子氏大兵を率いて播州に入る。至る所の城堡、風を望みて遁る。惟三木一城のみ固く守りて降らず。州に叛く者あり、兵を三好氏に借りて三木城を攻むること累月なり。就治大いに戦ひて之を敗る。別所氏の世、人に有ること盛んなりと謂ふ可し。

*乃祖のそ 祖父。 *就治じうぢ 村治。就治はその異名であるらしい。なお、就治の項は仁如集堯の「前別所画像讚」を典拠とする。 *御ご 統治する。 *搶攘せうじやう 争乱。 *邦内ほんない 国内。 *順じゆん 恭順。 *逆ぎやく 反逆。 *蕩平たうへい 党争を根絶すること。 *城堡じやうほう 城。 *累月るいげつ 月を重ねること。 幾月も続くこと。

考安治、亦有父風、不墜家聲、府君幼喪怙恃、叔父賀相・重棟、相共執政、永祿八年、三好義繼弒大樹義輝公、暴横畿甸、平信長、奉義昭公討賊、馳檄四方、府君、使重棟率兵抵京師、有力戰功、「先」考安治、亦父の風有りて、家聲を墜さず。府君幼にして怙恃を喪ひ、叔父の賀相・重棟、相共に家政を執る。永祿八年（一五六五）、三好義繼大樹義輝公を弒し、畿甸に暴横す。平「織田」信長、義昭公を奉じて賊を討ち、檄を四方に馳す。府君、重棟をして兵を率いて京師に抵らしめ、力戦の功有り。

*考こう 先考。亡父。 風ふう 風体。 *家聲けいせい 家の名声。 *怙恃こじ 父・母。ここでは父の安治。その贊が確認できないので記述は簡略。 弒し 弒逆。 *畿甸きでん 畿内。 *暴横ぼうわう 乱暴でわがまま勝手なこと。 *檄げき 馳す 武士や人々を急いで呼び集めること。

及信長之開幕府將伐毛利氏、遣使于府君曰、願、卿、爲我嚮導中國、府君許之、天正五年、信長、使秀吉出兵播東、府君遣叔父賀相及三

宅治忠謁之、秀吉問西征之策、治忠盡言以對、秀吉大言曰、勿多言、卿等爲前鋒、力戰可也、若號令・籌略我自有處置矣、府君大怒曰、吁、吾初謂、是役也、信長之行將、若非信忠則信雄矣、今乃使奴隸秀吉爲之將、吾若爲彼先驅掃馬前塵、爲天下笑、不若倍約絶和決勝敗于此矣、急檄麾下聚兵城守、使別將各據其城、與三木角立

信長の幕府を開き將に毛利氏を伐たんとするに及び、使を府君に遣はして曰く、「願はくば、卿、我が爲に中国へ嚮導せよ。」と。府君之を許す。天正五年、信長、「羽柴」秀吉をして兵を播東に出さしむ、府君叔父賀相及び三宅治忠を遣はし之に謁せしむ。秀吉西征の策を問ふ。治忠言を尽くして以て對ふ。秀吉大言して曰く、「多言する勿れ。卿等は前鋒と爲て、力戦せば可なり。号令・籌略の若きは我れ自ら処置有り。」と。府君大いに怒りて曰く、「吁、吾初め謂へらく、是の役たるや、信長の將を行むるに、若し信忠に非ざらんば則ち信雄ならんと。今や乃ち奴隸の秀吉をして之が將たらしむ。吾れ若し彼の爲に先驅して馬前の塵を掃かば、天下の笑ひと爲らん。約に倍き和を絶ちて勝敗を此に決せん若かず。」と。急ぎ麾下に檄して兵を聚め城守し、將を別かちて、各其の城に拠らしめ、三木と角立す。

* 卿 || 二人称の人称代名詞。臣下に対して軽い敬意をこめて用いる。

* 嚮導 || 先に立つて案内すること。 * 奴隸 || 召使われる者。 * 角立

|| 並立。

秀吉、召重棟曲論利害、府君不答、遂與秀吉絶、秀吉自率親兵縱火畧行、巡視要害而還、既而用嚮導、按地圖曰、我若直攻三木則諸城出兵倚角其後、不若先拔諸城使三木孤立、乃可以成功也、而先攻野口城急擊下之、

秀吉、重棟を召し曲きに利害を論す。府君答へず、遂に秀吉と絶つ。秀吉自ら親兵を率ひ火を縱ちて畧行し、要害を巡視して還る。既に嚮導を用ひ、地図を按じて曰く、「我れ若し直ちに三木を攻むれば則ち諸城兵を出して其の後を倚角せん。先ず諸城を抜き三木をして孤立せしむるに若かず。乃ち以て成功すべきなり。」と。而して先ず野口城を攻め急ぎ擊ちて之を下す。

* 親兵 || 身近にある兵。 * 畧行 || 侵略行為。 * 倚角 || 前後呼応して敵を制すること。

府君求援毛利氏、輝元遣兵三萬救之、信長亦、使信忠以大兵到播州、毛利兵、逗留于備・作之間而不進、信忠攻神吉城拔之、守將民部、躬自力戰、遂爲其下所殺、信忠凱還、使秀吉築塞于平山逼三木城、府君援けを毛利氏に求む。「毛利」輝元兵三萬を遣はして之を救ふ。信長も亦、信忠をして大兵を以て播州に到らしむ。毛利の兵、備・作の間に逗留して進まず。信忠、神吉城を攻めて之を抜く。守將「神吉」民部、躬自ら力戦するも、遂に其の下の殺す所と爲る。信忠凱還し、秀吉をして塞を平「井」山に築き三木城に逼らしむ。

* 下 || 臣下。家臣。 * 凱還 || 戦いに勝つて帰ること。 * 塞 || 砦。

明年二月、府君、使弟治定及賀相、率精騎三千攻平山寨不克、麿戰數刻、治定鬪死、一日秀吉襲淡川定範、定範、出奇計破之、而退保三木城、

明くる年二月、府君、弟治定及び賀相をして、精騎三千を率ひて平「井」山の塞を攻めしむるも克たず。麿戰數刻、治定鬪死す。一日秀吉淡河定範を襲ふ。定範、奇計を出して之を破り、而して退き三木城を保る。

*精騎セイキニえりすぐった騎兵。すぐれた軍隊。 *塵戦チンセンニ皆殺しにするほどの激戦。 *一日イチニチニある日。

毛利氏、使蒙衝二百到明石魚住、納糧于三木城、秀吉、急築砦列柵、横亘數十里絶三木餉道、毛利兵、潜與城兵刻期襲平田塞、斬守將谷衛好、秀吉馳救之、城兵敗衄、淡河定範健闘死之、於是秀吉、圍三木益急、城中食竭、殺馬掘鼠、飢羸特甚、外城既陷、毛利氏、蒙衝二百をして明石の魚住に到りて、糧を三木城に納れしむ。秀吉、急ぎ砦を築き、柵を列ね、横數十里に亘り三木の餉道を絶つ。毛利の兵、潜に城兵と刻期して平田の塞を襲ひ、守將谷「野」衛好を斬る。秀吉馳せて之を救ひ、城兵敗衄す。淡河定範健闘して之に死す。是に於いて秀吉、三木を圍むこと益急なり。城中食竭き、馬を殺し鼠を掘り「以て食らふ」、飢羸特に甚し。外城既に陥る。

*蒙衝モウシュウニ戦艦。 *餉道クウダウニ食糧を運ぶ道。 *刻期コクキニ期日を決めること。 *敗衄バイソクニ敗戦。 *飢羸キレイニ飢えて衰弱すること。 *外城ガイジョウニ本丸に対し、外郭(そとぐるわ)のこと。そとじろ。

府君、謂弟友之曰、吾常竭心、勵勇以克復爲念、將士守義不叛、然糧道已絶、命在旦夕、縱能強戰、何得復當敵哉、願吾兄弟自殺可以救衆人之命、友之奮起曰、君言是也、因遣書秀吉、請以身代衆、秀吉報曰、頃年之戰、君數失利、而非戰之罪、殆時勢之乖天運之窮也、而今立志、守義、殺身代衆、雖古之英烈復何過此、讀書不覺淚之淫淫下、若然我豈食言、因贈酒肴慰之、府君大喜、謝衆告訣、悲歌慷慨、手刺妻子、兄弟相共自殺、年二十有三、實天正八年正月十有七日也、

府君、弟の友之に謂ひて曰く、「吾れ常に心を竭し、勇を勵み克復するを以て念と爲す。將士は義を守りて叛かず。然れども糧道已に絶へ、命旦夕に在り。縱ひ能く強ひて戦ふとも、何ぞ復た敵に当たることを得む哉。願はくは吾が兄弟自殺し以て衆人の命を救ふべし。」と。友之奮ひ起ちて曰く、「君の言は是なり。」と。因りて書を秀吉に遣はし、身を以て衆に代らんことを請ふ。秀吉報して曰く、「頃年の戦、君數利を失ふ、而れども戦の罪に非ず、殆んど時勢の乖くところ、天運の窮なり。而して今志を立て、義を守り、身を殺して衆に代はるは、古の英烈と雖も復た何ぞ此に過ぎん。書を読みて涙の淫々として下るを覺えず。若し然らば我れ豈言を食まんや。」と。因りて酒肴を贈りて之を慰む。府君大いに喜び、衆に謝し訣れを告げ、悲歌慷慨し、手づから妻子を刺し、兄弟相共に自殺す。年二十有三。實に天正八年(一五八〇)正月十有七日なり。

*糧道リョウダウニ食糧を運ぶ道。食糧の入手方法。 *旦夕タンセキニ危機が切迫していること。短時間。 *頃年ケイネンニここ数年。近年。 *英烈エイレイニ正義のために身を犠牲にした人。 *淫インニあふれる。 *悲歌慷慨ヒカコウガイニ悲しい歌をうたい、いきどおり嘆くこと。

噫嘻嗚呼、人之立其朝、食其祿、而患難顛沛之際、忘義負恩、委靡軟熟惴惴然、苟免之不暇、豈遑恤佗而、況、爲人之君自殺其身、以代萬衆之命、若府君天下有幾人哉、府君當此之時突圍出奔耶、強奮疲羸借一戰死、抑緹城潛逃耶、亦將出下計而降之、然則、信長之殘暴、秀吉之勇怒、城中之人屠戮禽獸靡有子遺、府君慮之周見之明、立志殉國、斷義救衆、上無辱祖先、下不負士民、寧可玉碎不爲瓦全、豈不誠烈丈夫哉、噫嘻嗚呼、人の其の朝に立ち、其の祿を食み、而も患難顛沛の際、

義を忘れ恩に負そむき、委靡軟熟し惴々然として、苟かりそめにも之を免れんとして暇あらず。豈あに佗たを恤あはれむ違いとまあらんや、而して況いわんや、人の君と為して自ら其の身を殺して、以て万衆の命に代はるをや。府君の如きは天下に幾人か有らんや。府君此の時に当りて圍かこみを突き出奔しゅつほんせんや。強ひて疲羸ひるいを奮ひて一戦を借りて死せんか。そもそも城に絶りて潜かに逃れんや。亦將に出でんとして計を下して之に降らんか。然らば則すなはち、信長の残暴、秀吉の勇怒、城中の人屠戮禽讎とりくきんこくし子遺げつ有ること靡なけん。府君之を慮おもんばかるは周見の明なり。志を立て国に殉したがひ、義を断ちて衆を救ひ、上は祖先を辱むること無く、下も士民に負そむかず。寧ろ玉碎し瓦全がぜんを為さず。豈あに誠烈の丈夫ならざらんか。

* 患難わづらひ || 悩みや苦しみ。難儀。患苦。* 顛沛てんぱい || つまづき倒れること。とつさの場合。慌ただしとき。* 義 || 利害をすてて条理に従う。公共のために尽くす気持。* 委靡 || 精神・気持ちが消沈している。しよげている。* 惴惴 || 恐れてびくびくするさま。* 佗 || 他。わび。わびしさ。* 恤あはれへる || 憂える。心配する。* 疲羸 || 疲れてぐったりしたさま。* 絶たる || すがりつく。* 残暴 || 残酷で乱暴なこと。むごくて荒々しいこと。* 勇怒 || はなはだしい怒り。* 屠戮禽讎 || 皆殺しにして首を切る。* 子遺 || 残余。* 靡 || 微。なくなる。周見の明 || あまねく見ること。* 士民 || 武士と庶民。* 瓦全 || 何もしないで生き長らえること。玉碎の反対語。* 誠烈 || まごころがあつて、信念を強く守ること。* 丈夫 || 立派な男。武人。

東播父老相共語曰、府君之死于今百年、嚮微府君之代衆、則我郷先人殆無噍類、吾儕至今保首領、而優游於太平無事之日府君之賜也、願勒義烈于貞石、而垂令名于不朽、使我子孫知所敬、不亦可乎、遂相謀來京師囑余記之、

東播の父老相共に語りて曰く、「府君の死するや今に百年なり。嚮むかしに府君の衆に代ること微なりせば、則すなはち我が郷の先人殆んど噍類せうるい無からん。吾儕わなみ今に至るまで首領を保ち、而して大平無事の日に優游いういうするは府君の賜なり。願ねがくば義烈を貞石ていせきに勒ろくし、而して令名を不朽に垂れ、我が子孫をして敬ふ所を知らしむるも、亦可ならずや」と。遂に相謀りて京師に來たり余に囑して之を記せしむ。

* 父老 || 集落の代表者。指導者。* 嚮 || 前。* 微 || なくなる。* 噍類 || 生きている人。* 吾儕 || 吾がともがら。われら。* 首領 || くび。かしら。* 義烈 || 正義を守る心が強く激しいこと。* 貞石 || 堅い石。* 勒 || すゝぎざむ。彫り付ける。* 令名 || よい評判。英声。

余謂、如府君、事載青史、名傳口碑、不待鄙言赫然顯著、雖然、樂道人之善者君子之道也、不敢以辭、想夫非府君之賢、孰能感父老于百年之後、非父老之厚、亦何慕府君于百年之前、所謂斯民之直道、相感相慕一出于義者也、遂書顛末、繫之以銘、銘曰、余謂おもへらく、府君の如きは、事は青史に載り、名は口碑に伝ふ。鄙言ひげんを待たず赫然かくぜんとして顯著しやくちやくなり。然りと雖も、人の善を道いふを樂しむは君子の道なり。敢へて以て辞せず。想ふに夫府君の賢に非ずんば、孰たれか能く父老をして百年の後に感ぜしめん。父老の厚に非ずんば、亦何ぞ府君を百年の前に慕はんや。いわゆる斯民しんの直道ちきどう、相感あひかんじ相慕あひまもふは一に義に出づるものなり。遂に顛末を書して、之を繫むすぶに銘を以てす。銘に曰く、

* 青史 || 歴史。歴史書。記録。* 鄙言 || 卑しい言葉。* 赫然 || 明らかかなさま。* 厚 || 手厚い。ねんごろ。* 斯民 || 万民。* 直道 || 他たの力を借りないで、直接に仏の道を知ることのできるもの。

維赤松族 分枝播東 奕葉垂蔭 百戰僇功 八郡之督 萬夫之雄
時運所否 勇烈遂空 重義輕命 代衆致衷 胡爲不弔 仰彼蒼穹
人誰無死 孰若我公 民好懿德 爰懷遺風 百年相感 千載共同
石其可泐 英聲無窮

維赤松の族 枝を播東に分つ 奕葉蔭を垂れ 百戦功を僇す
八郡の督にして 万夫の雄なり 時運の否とする所 勇烈遂に空
し 義を重んじ命を軽んじ 衆に代はりて衷を致す 胡爲ぞ弔
らはざらんや 彼の蒼穹を仰ぐ 人誰か死無からん 孰か我が公
の若き 民は懿徳を好み 爰に遺風を懐ふ 百年相感じ 千載共
に同じ 石は其れ泐す可くとも 英聲は窮り無からん

*枝一 族。子孫。 *奕葉 世を重ねること。 *百戦 多くの戦い。
*督 長官。ここでは守護代。 *万夫 多くの武士。 *衷 まごころ。
*蒼穹 青空。 大空。 *孰 誰。 *懿徳 立派な徳。 *遺風
後世に残っている昔の風習・習慣、先人の教え。 *千載 千年。長
い年月。 *泐す 砕ける。 *英声 名声。

延寶六年歲次戊午春正月十有七日 江東 柳 順剛 撰
延寶六年（一六七八）歲は戊午に次るの春正月十有七日 江東
の柳「川」順剛撰ず。

*柳順剛 柳川順剛。近江柳川の人。藤原惺窩の孫弟子木下順庵に師事
した。

（背面）東播三木郡十二村里長各募衆縁、共住持禪空素伯立
東播三木郡十二村の里長各衆縁を募り、住持禪空素伯と
共に立つる。

*三木郡十二村 中世美囊本郷（三木本郷）、内の村、およそ現在の三木

市別所町（旧美囊郡別所村）の大字とみてよい。 *里長 近世の名主
・庄屋・村長 *禪空素伯 法界寺住持中興第八世。

墓碑の内容

墓碑は、天正八年（一五八〇）正月十七日に三木城において自害
した三木城主別所長治の百回忌に向けて、延寶六年（一六七八）正
月十七日に建立された。一二村の里長と法界寺住持等の願いを受け
た作者柳川順剛は、碑文に、三木赤松別所氏の遠祖たる敦範（赤松
円心の孫）を記し、高祖則治から始まる歴代の事績を述べ、長治の
威徳を讃える。

敦範と則治の記事については天隠龍沢の「赤松別所大藏少輔則治
公寿像贊」（『翠竹真如集』／『五山文学新集』第五卷、一九七一ほか所収）
を、祖父村治については仁如集堯の「前別所画像讚」（東京大学史料
編纂所謄写本『鏤氷集』天ほか所収）を典拠としている。茂叔集樹作の
讚を発見できなかった曾祖父耕月および讚を確認できない安治の記
事は簡略である。長治の威徳は、大村由己が「播州御征伐之事」（『群
書類従』第二十一輯ほか所収）に述べる、領主として自らの命と引き
替えに籠城の兵士・民衆の命を助けた行為である。記述内容は必ず
しも史実とはいえないが、博搜して得られた資料に何ら付け加える
ことなく、客観的な記述につとめている。

また、墓碑に綴られた三木赤松別所氏歴代の事績は、別所軍記だ
けでなく、播磨では忘れられていた歴史を史料から読み解くもので
ある。これは平野庸脩の『播磨鑑』（宝暦十二年、一七六二）に紹介さ
れ、以後別所氏および同氏にまつわる播磨の歴史を語る上での典拠
とされた。天川友親（喬木堂）の編んだ「播陽諸家大系図」（宝暦十
年）と「赤松諸家大系図」（宝暦十二年）を見較べると、両者の内容

は異なっており、後者では前者にない墓碑からの引用記事がみられる。墓碑建立は画期的な出来事であった。さらにこれは、延宝六年という年次を節目とすることによって、江戸時代に書かれた播磨の書誌・系図等の成立時期・内容の検討にも役立つことになる。墓碑は、別所氏・三木市の歴史のみならず、播磨の歴史研究にとって重要な意義を有する史料といえる。

墓碑建立にいたる背景（三木郡一二村と別所長治）

三木市内在住者にとって、三木城主別所長治が自らの命と引き替えに籠城の兵士・民衆の命を助けた行動は疑いをはさむ余地のないことであった。同じく秀吉が攻めた天正五年（一五七三）の上月城では、兵だけでなく、女・子供まで皆殺しにあっている。この落差は大きく、美談であり、威徳と讃えられる。

この威徳については、豊臣秀吉（羽柴秀吉）の徳を顕彰するため大村由己が創作したとの小林基伸氏の論考（小林基伸「三木合戦の経緯」／三木市教育委員会『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書』、二〇一〇・同「三木城の最期について」／『歴史と神戸』第二九三号、二〇一〇）がある。小林氏は外部からの視線で史料に基づいて客観的に考察されている。私はこの説におおむね賛同するものである。

それでは、なにゆえ旧三木城城下の三木町ではなく、東這田村の法界寺が長治の菩提を弔う寺院となり、三木郡一二村の人々によって墓碑が建立され、長治の威徳が讃えられるようになったのか。この背景を知るには碑文にある「三木郡十二村」についての検討が必要となる。

三木郡一二村はおよそ現在の三木市別所町（旧美囊郡別所村）の地域とみられる。ただし、別所町興治の村としての成立は宝永元年（一

七〇四）、別所町小林は享保十三年（一七二八）であった。

宝暦十二年（一七六二）の『播磨鑑』所収法界寺の記事によれば、天正八年正月三木落城の後、下郷一二か村の名主が、秀吉から長治等一族の屍をもらい受けたという。法界寺の絵解きでは「籠城の諸士、十二か村諸人、命を助かり、城を出るの図なり。」と説かれる。天保十二年（一八四一）、讃岐の別所長善が三木合戦図模写本・友之と治定の五輪塔および石灯籠を寄贈した際には、一二か村の百姓が日役で印南郡国包（加古川市）から法界寺まで搬送した（法界寺住持円空書状／庵途巖「鎮魂の絵解き」／『昔話伝説研究』第五号、一九七五所収、のち『三木史談』第四号、一九八〇に転載。）つまり、下郷一二村は三木郡一二村と同一地域を指している。

宝永元年に美囊郡内に所領を得て高木村に陣屋を置いた旗本一柳氏の所領区分に上郷・下郷がある。これは郡内東部の所領を上郷、西部の所領を下郷と呼んだものである。『美囊郡誌』によれば、下郷は高木村・東這田村・西這田村・花尻村・上石野村・中石野村・下石野村および跡部村の八か村である。のちに追加された和田村・正法寺村と興治村・小林村を加えれば一二か村になる。しかし、跡部村は中世久留美荘内であることが明確で、高木村も久留美荘内の可能性もあつて確定できない。そもそも下郷という呼称は延宝六年（一六七八）当時に存在した郷名ではない。また一二村は、村数ではなく集落数である可能性もある。

慶安元年（一六四八）八月十七日徳川家光朱印状写に「三木郡本郷内正法寺」とあるように（『美囊郡誌』）、三木郡一二村は美囊川下流域に展開する中世の荘園美囊本郷（三木本郷）であり、三木本郷とも呼ばれた。美囊本郷は、郡名十本郷であり、美囊郡内でもっとも古い時代に開けた地域を意味する。この地域名を捨て中世の新開

地を指す「別所」を明治の自治体名に選んだのは、地域住民の長治に対する強い敬慕の念の示すところといえる。

さて三木合戦当時、法界寺の南東の裏山に羽柴秀吉方の部将宮部継潤の陣所（法界寺山ノ上付城）があり、三木城包圍網の西側の要となっていた。継潤は近江の戦国大名浅井長政家臣から織田信長家臣に転じ、秀吉の有力与力として参陣していた。そして、包圍網の建設には多数の住民が動員された。石野城主の石野氏は南北朝期以来美囊本郷の在地領主であった（永享四年十二月十七日室町幕府裁許状写／『御前落居記録』）。最後の当主氏満は、長治に与して戦ったため落城後に切腹を申し渡され、有馬則頼（筑後久留米藩主有馬豊氏の父）と黒田孝高（筑前福岡藩主黒田長政の父官兵衛）が織田信長に嘆願して辛くも助命され、国外追放されている（東京大学史料編纂所謄写本『石野系図』ほか）。したがって、地域住民は凶らずも別所氏や領主石野氏に敵対する立場におかれ、負い目の感情を抱いたに違いない。

当時の人々の意識には非業の死を遂げた者の霊が祟ると考える御霊信仰が浸透していた。このため、美囊本郷一二村の人々が、陣所に近い法界寺を長治の菩提を弔う場所としたものと考えられる。当初は怨霊の祟りに恐怖を感じてこれを鎮めるのを目的としたが、恐怖は次第に畏怖・畏敬、そして敬慕に変化していった。

元弘三年（一一三三）五月、六波羅探題北方長官北条仲時が京都から関東へ落ち延びる途中に行く手を塞がれ、近江番場蓮華寺（滋賀県米原市）において一族郎党四三二名とともに自刃した。蓮華寺は一八九名の名前を記した『陸波羅南北過去帳』を所蔵し、寺内には後世に設置された一石五輪塔群もある。そして、近在の多数の住民が自刃した武士の子孫だと伝えている。これも同様の例のひとつといえる。

おわりに

歴史は忘れ去られるし、また一方で忘れたいものでもある。石野氏家老宮脇氏の一族にあたる方が三木市別所町域に居住されているが、追放された石野氏満のことはまったく記憶に残らなかった。当時の記録がなければ正しい歴史は伝わらない。そして「播州御征伐之事」等の別所軍記による記憶への刷り込みが生じる。墓碑が建立された延宝六年（一六七八）には、史実ではない別所長治の威徳が美囊本郷一二村住民の意識にすっかりと定着していた。享保二十年（一七三五）以前のことだが、絵解きにも登場する梶原冬庵の縁者である法界寺住持が「梶原系図」と同寺所蔵「三木別所記」とを照合するなど（元文元年九月十八日梶原景次書状／『史籍雑纂』家伝史料卷四）、三木合戦と長治への思いはより強まっていった。

しかし、城兵等籠城者の助命が事実でないとしても、墓碑がその価値を損なうことはない。法界寺が長治の菩提所とされたのは紛れもない事実である。同寺で催される三木合戦絵図絵解きは非業の死をとげた長治の怨霊をしずめ、逆に強力な守護神とする慰霊鎮魂を目的とする芸能である（庵途巖「鎮魂の絵解き」）。墓碑は絵解きと対をなすものである。墓碑建立は三木合戦終結後一〇〇年という節目にあたり、中世が消え失せていく時代であった。墓碑に記されることによつて、一二村住民の当初の思いは現在まで伝えられた。

付記 小稿掲載の墓碑積文は完璧なものではない。ご自身で精読を希望される場合は、みき歴史資料館所蔵の碑文拓本写真を利用されたい。なお、積文を収録した文献には、平野庸脩『播磨鑑』（歴史図書社版『播磨鑑（全）』、一九七五）・三木文庫『圖説三木戦記』（一九六八）・別所公礼賛の会『三木城主別所長治公碑文』（一九八〇）等がある。これらも参照されたい。

東播八郡總兵別所府君墓表 全文一括釈文（は改行を示す）

君子之觀人、不必以成敗・興亡、而定其論、蓋復取其義之當與不當焉、夫成敗勢也、興亡天也、在天在勢者、非人之所能、其惟顧其志之所在何如而已、府君、姓源、氏別所、諱長、「治、世之所謂赤松圓心之裔、而其先出於村上帝、圓心之孫敦範、爲別所氏、屬赤松麾下、貞和五年、大樹尊氏公、以播州佐用豐福邑賜敦範、此乃府君之囊祖也、高祖大藏少「輔、諱則治、盡忠於其主政則、英譽芬郁、初圓心、屬足利氏有功勞、而賜播州及旁近數州、曾孫滿祐、傳領播・備・作三州之地、嘉吉之弑逆也、赤松氏幾殲、長祿・應仁之際政則勃「興、文明之末、但州之兵入播州、州兵失利政則敗走、則治、護政則來京師、密謀秘計、聞于東山相公、請、討但兵以復舊國、相公許之、於是、奉政則歸播州、與但兵相持者五年、但「兵夜遁、播州盡平、備州・作州相次克復、赤松氏之騰茂繫則治是賴、政則、感其忠誠、割膏腴之地封之、遂以東播八郡隸其管下、居三木城、而則治之威名大震方國、曾祖某相「繼克厥家、乃祖加賀守、諱就治、勇有智略、信愛御衆、大永之初邦内搶攘、兄弟親戚各懷異志、就治能處其間、撫順誅逆、遂致蕩平、雲州尼子氏率大兵入播州、所至城堡、望風「而遁、惟三木一城固守不降、州有叛者、借兵三好氏攻三木城累月、就治大戰敗之、別所氏世、有人可謂盛矣、考安治、亦有父風、不墜家聲、府君幼喪怙恃、叔父賀相・重棟、相共「執家政、永祿八年、三好義繼弑大樹義輝公、暴橫畿甸、平信長、奉義昭公討賊、馳檄四方、府君、使重棟率兵抵京師、有力戰功、及信長之開幕府將伐毛利氏、遣使于府君曰、願、「卿、爲我嚮導中國、府君許之、天正五年、信長、使秀吉出兵播東、府君遣叔父賀相及三宅治忠謁之、秀吉問西征之策、治忠盡言以對、秀吉大言曰、勿多言、卿等爲前鋒、力戰可「也、若號令・籌略我自處置矣、府君大怒曰、吁、吾初謂、是役也、信長之行將、若非信忠則信雄矣、今乃使奴隸秀吉爲之將、吾若爲彼先驅掃馬前塵、爲天下笑、不若倍約絕「和決勝敗于此矣、急檄麾下聚兵城守、使別將各據其城、與三木角立秀吉、召重棟曲論利害、府君不答、遂與秀吉絕、秀吉自率親兵縱火畧行、巡視要害而還、既而用嚮導、按「地圖曰、我若直攻三木則諸城出兵犄角其後、不若先拔諸城使三木孤立、乃可以成功也、而先攻野口城急擊下之、府君求援毛利氏、輝元遣兵三萬救之、信長亦、使信忠「以大兵到播州、毛利兵、逗留于備・作之間而不進、信忠攻神吉城拔之、守將民部、躬自力戰、遂爲其下所殺、信忠凱還、使秀吉築塞于平山逼三木城、明年二月、

府君、使弟治定「及賀相、率精騎三千攻平山寨不克、屢戰數刻、治定鬪死、一日秀吉襲淡川定範、定範、出奇計破之、而退保三木城、毛利氏、使蒙衝二百到明石魚住、納糧于三木城、秀吉、急築「砦列柵、橫亘數十里絕三木餉道、毛利兵、潛與城兵期襲平田塞、斬守將谷衛好、秀吉馳救之、城兵敗、淡河定範健鬪死之、於是秀吉、圍三木益急、城中食竭、殺馬掘鼠、飢「羸特甚、外城既陷、府君、謂弟友之曰、吾常竭心、勵勇以克復爲念、將士守義不叛、然糧道已絕、命在旦夕、縱能強戰、何得復當敵哉、願吾兄弟自殺可以救衆人之命、友之奮起「曰、君言是也、因遣書秀吉、請以身代衆、秀吉報曰、頃年之戰、君數失利、而非戰之罪、殆時勢之乖天運之窮也、而今立志、守義、殺身代衆、雖古之英烈復何過此、讀書不覺淚之「淫淫下、若然我豈食言、因贈酒香慰之、府君大喜、謝衆告訣、悲歌慷慨、手刺妻子、兄弟相共自殺、年二十有三、實天正八年正月十有七日也、噫嘻嗚呼、人之立其朝、食其祿、而患「難顛沛之際、忘義負恩、委靡軟熟惴惴然、苟免之不暇、豈遑恤佗、而況、爲人之君自殺其身、以代萬衆之命、若府君天下有幾人哉、府君當此之時突圍出奔耶、強奮疲羸借一「戰死、抑絕城潛逃耶、亦將出下計而降之、然則、信長之殘暴、秀吉之勇怒、城中之人屠戮禽獸靡有子遺、府君慮之周見之明、立志殉國、斷義救衆、上無辱祖先、下不負士民、寧「可玉碎不爲瓦全、豈不誠烈丈夫哉、東播父老相共語曰、府君之死于今百年、嚮微府君之代衆、則我鄉先人殆無噍類、吾儕至今保首領、而優游於太平無事之日府君之賜「也、願勒義烈于貞石、而垂令名于不朽、使我子孫知所敬、不亦可乎、遂相謀來京師囑余記之、余謂、如府君、事載青史、名傳口碑、不待鄙言赫然顯著、雖然、樂道人之善者君子「之道也、不敢以辭、想夫非府君之賢、孰能感父老于百年之後、非父老之厚、亦何慕府君于百年之前、所謂斯民之直道、相感相慕一出于義者也、遂書顛末、繫之以銘、銘曰、

維赤松族 分枝播東 奕葉垂蔭 百戰屛功 八郡之督 萬夫之雄
時運所否 勇烈遂空 重義輕命 代衆致衷 胡爲不弔 仰彼蒼穹
人誰無死 孰若我公 民好懿德 爰懷遺風 百年相感 千載共同
石其可泐 英聲無窮

延寶六年歲次戊午春正月十有七日 江東 柳 順剛 撰

（背面）東播三木郡十二村里長各「募衆緣、共住持禪空素伯立

みなぎの1

—平成28・29年度 三木市立みき歴史資料館年報・紀要—

編集・発行 三木市立みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL. 0794-82-5060 FAX. 0794-82-5068

発行日 令和2年3月31日
印刷 小野高速印刷株式会社